

第2章

環境の現状

本章では、各種の既存文献資料や統計資料などを分析し、本町の環境の現状を示すとともに、環境特性マップで環境資源の分布状況を整理しています。



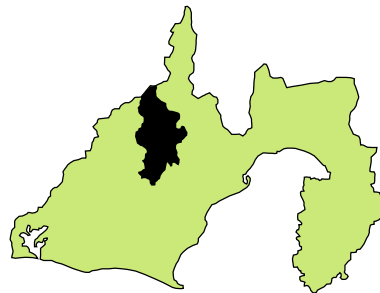
第1節 社会環境

1-1 立地条件・面積

★ 町域は静岡市、島田市、浜松市、長野県と接しており、面積は約 496.72 km² で県全体の 6.4% にあたります。

本町は静岡県の中央部に位置し、東は静岡市、南は島田市、西は浜松市に隣接するほか、北は長野県との県境となっています。

町域は大井川に沿った東西約 23km、南北約 40km の南北に細長い形で、面積は 496.72km²（県全体の 6.4%）、このうちの約 94%を森林が占めています。



1-2 まちの歩み

★ かつては稲作や木材・木炭製造、椎茸栽培などが行われてきましたが、近年は川根茶の栽培や観光などが盛んです。

本町には、旧石器時代（約3～4万年前）から人が住み始めたとされ、町内では縄文時代（約1万年～2,500年前）の遺跡が数多く発見されています。

かつては稲作や木材・木炭製造、椎茸栽培などが行われてきましたが、近世初期から茶の栽培が始まり、明治時代以降は輸出産業として高い評価を受けてきました。

明治時代末からダム建設が始まり、大正・昭和時代には次々と発電所が建設されました。昭和6年12月には大井川鐵道が全線開通しました。お茶と林業とダムに加え、高度成長期には工場誘致と寸又峡温泉などを中心とした観光振興の取り組みが進められてきました。特に基幹産業である茶業では、農林水産大臣賞などの輝かしい賞を数多く受賞するなど、先人の努力によって品質向上が図られ、上質な煎茶として「川根茶」の名声は全国に知られるようになりました。

昭和40年頃から、道路や橋、教育・文化施設、医療・福祉施設、町営住宅などを順次整備しながら、ウッドハウスおろくぼ、フォーレなかかわね茶茗館、奥大井音戯の郷、白沢温泉「もりのいずみ」などの観光拠点の整備も進めてきました。

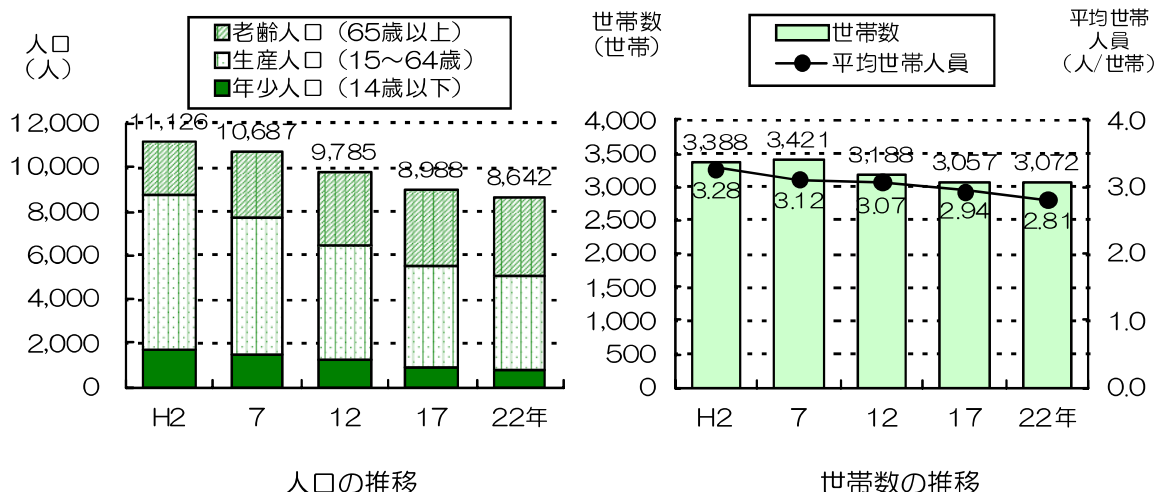
平成17年9月、国の地方分権と財政危機などに対応し、地域のさらなる発展を目指して旧中川根町と旧本川根町が合併し、川根本町が誕生しました。

1-3 人口・世帯数

★ 人口の減少や高齢化が進んでおり、高齢化率は県内で最も高くなっています。

平成22年1月1日現在の本町の人口は8,642人、世帯数は3,072世帯、平均世帯人員は2.81人/世帯で、人口及び平均世帯人員は年々、減少傾向にあります。住民基本台帳（外国人を含まない）によると、年齢階級別人口は年少人口が8.7%、生産人口が50.5%、高齢人口が40.8%で、年々少子高齢化が進んでおり、高齢化率40.8%（高齢人口）は県内で最も高くなっています。

「第1次川根本町総合計画」の推計によれば、今後も人口の減少は続き、平成28年には人口が7,118～7,325人（コーホート推計法、トレンド推計法）まで減少し、さらに高齢化が進むと予測されています。



注1) H2~17は国勢調査報告(外国人を含む)のデータを使用。

注2) 平成22年は1月1日現在のデータ。ただし、年齢別人口(年少人口、生産人口、高齢人口)のみ住民基本台帳(外国人を含まない)のデータを使用。

【資料:国勢調査報告、川根本町ホームページ】

1-4 産業

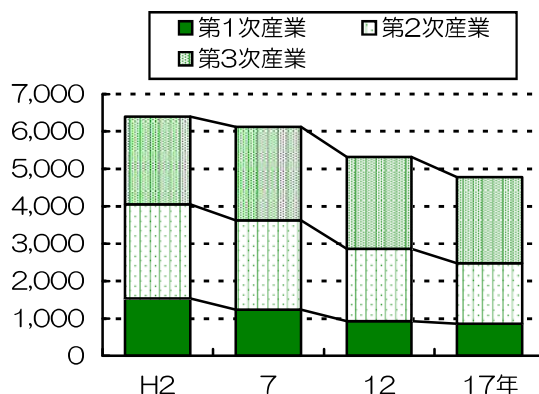
(1) 産業別就業人口

★ 産業別就業人口は第1次産業、第2次産業で減少し、第3次産業は横ばいで推移しています。

平成17年の産業別就業人口は4,777人で、総人口の約55%を占めています。

産業別では第1次産業が860人(18.0%)、第2次産業が1,617人(33.8%)、第3次産業が2,300人(48.1%)となっており、第1次産業の占める割合が比較的高いことが特徴です。

産業別就業人口の推移は、第1次産業及び第2次産業が減少し、第3次産業はほぼ横ばいの傾向がみられます。



産業別就業人口(15歳以上)の推移

【資料:国勢調査報告】

(2) 農林水産業

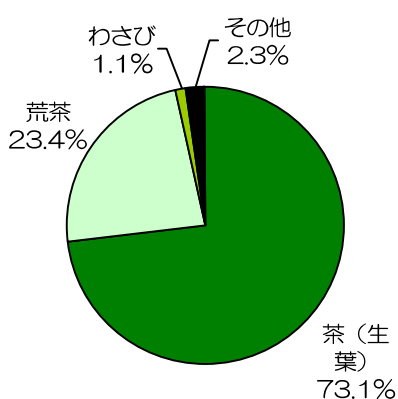
① 農業

★ 農業産出額はお茶が全体の約95%を占めています。

★ 農家数、耕地面積は年々減少しています。

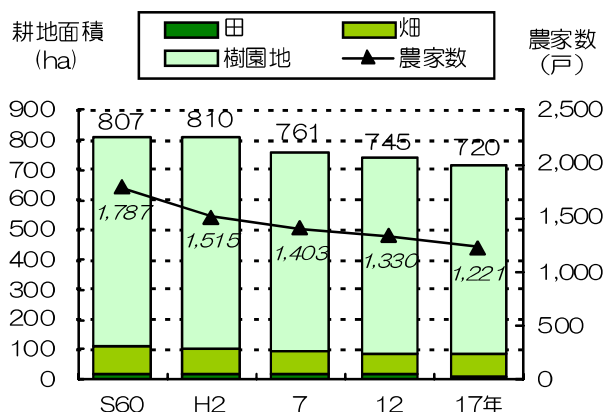
本町の特産物であるお茶は、農林水産大臣賞や産地賞をはじめ数々の輝かしい賞を受賞するなど、全国的に知られている「川根茶」の産地であり、農業産出額はお茶(生葉、荒茶)が全体の約95%を占めています。

しかし、近年では過疎化や兼業化が進み、農業従業者の高齢化や担い手不足が深刻な問題となっています。また、農家数の減少に伴って樹園地を主体とする耕地面積も減少しています。耕作放棄地も多く、平成20年度の耕作放棄地面積は約25haでした。



農業産出額の内訳（平成18年）

【資料：平成18年静岡県生産農業所得統計】



耕地面積と農家数の推移

【資料：静岡県農林水産統計年報】

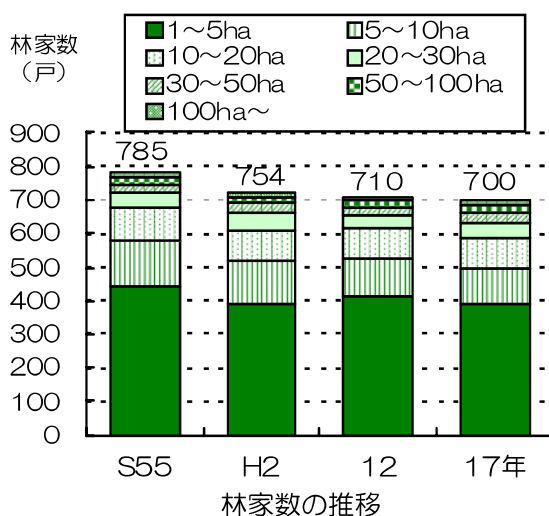
②林業

- ★ 町面積に占める森林面積の割合は約94%で、そのうち国有林が約58%を占めています。
- ★ 林家数が減少し、後継者不足や林業労務者の高齢化などが課題となっています。
- ★ 森林管理の適正化と林業の再生を目指して、FSC森林認証を取得しました。

平成19年度のデータによると、本町の面積の約94%（46,626ha）が森林で、そのうち約58%が国有林、42%が民有林・公有林です。国有林はその比率が高いのが特徴で、県内国有林の29%を占めています。民有林の人工林の割合は約72%となっています。これらの森林は地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収したり、水を育む力などの多面的な機能を有する貴重な財産です。

林業はかつて非常に盛んで、スギ・ヒノキの人工林が育っていますが、若者の流出や材価低迷などによって林家数は年々減少しており、平成17年は700戸となっています。特に保有山林面積が1～5haの小規模な林家数は減少が著しくなっています。本町の林家の多くは基幹産業である茶業を主体として兼業的に林業を実施しています。さらに、急傾斜地等の作業条件の厳しい森林が多いこと、林道整備や機械化の遅れなどが経営意欲の減退を引き起こしており、後継者不足、林業労務者の高齢化などが深刻な課題となっています。

本町では、町有林と一部の林家で組織する森林管理グループ「F-net 大井川」を結成し、森林管理の適正化と林業の再生を目指して、平成20年3月にFSC森林認証を取得しました。同認証は、全国24番目、県内では初の取得となります。認証を取得した森林は合計1,465.96haでその内訳は、人工林・針葉樹が1,131.14ha（77.2%）、人工林・広葉樹が18.29ha（1.3%）、天然林が260.11ha（17.8%）、その他が56.42ha（3.9%）です。



林家数の推移

【資料：世界農林業センサス・静岡県統計書】

③漁業

★ **大井川本支流に漁業権が設定され、アユ、アマゴ、ウナギ、ニジマスを釣ることができます。**

大井川本支流には、アユ、アマゴ、ウナギ、ニジマスの漁業権が設定されており、多くの遊漁者に利用されています。

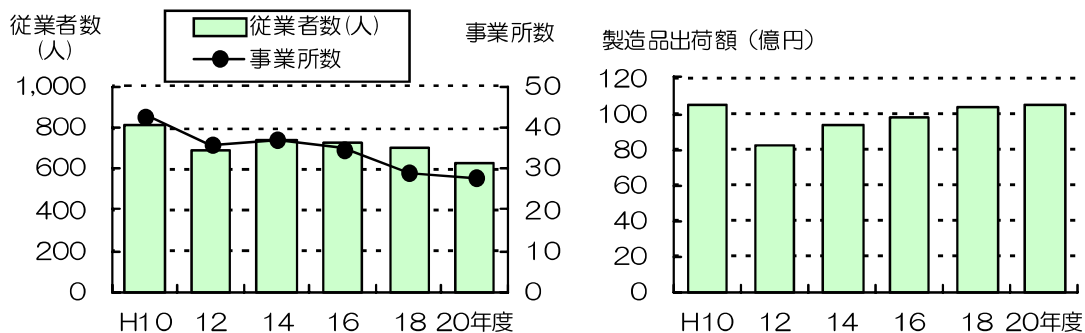
(3) 工業

★ **事業所数と従業者数は減少していますが、製造品出荷額は増加しています。**

★ **精密機械器具、飲料などを中心に製造業が発達しています。**

本町の平成 20 年の事業所数（4人以上）は 28、従業者数は 627 人、製造品出荷額等は 104.9 億円です。事業所数と従業者数は平成 14 年以降減少していますが、逆に製造品出荷額は増加しています。町内には少数ながら精密機械、電気機械、製茶（仕上茶製造工場）等の企業が立地しており、製造品出荷額は精密機械器具、飲料などが多くなっています。

県全体の水準と比較して、1 事業所当たりの規模が小さいこと、従業員 1 人当たりの出荷額が低いことが特徴として挙げられます。



事業所数と従業者数の推移（4人以上）

【資料：工業統計調査報告書】

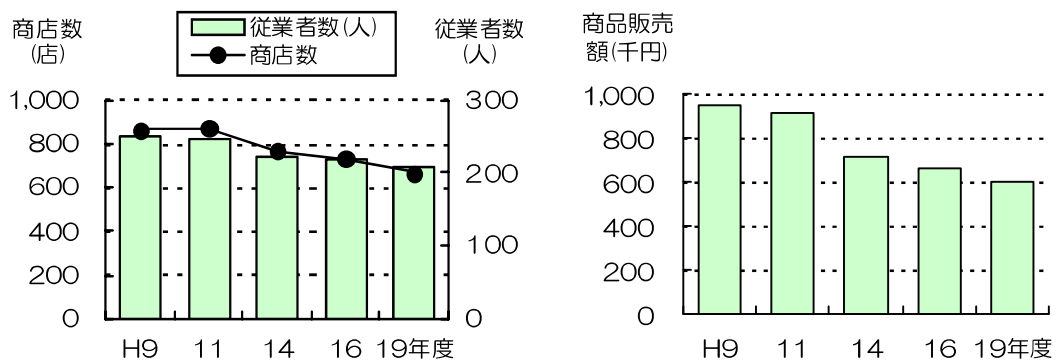
製造品出荷額の推移（4人以上）

【資料：工業統計調査報告書】

(4) 商業

★ **商店数、従業者数、年間販売額はいずれも減少傾向となっています。**

本町の平成 19 年の商店数は 201、従業者数は 694 人、年間販売額は 59.7 億円です。商店数、従業者数、年間販売額はいずれも減少傾向となっています。町内には、大規模小売店舗立地法に基づく店舗面積 1,000 ㎡以上の大型店舗がなく、小規模店舗が多いことが特徴です。



商店数と従業者数の推移

【資料：商業統計調査報告書】

年間商品販売額の推移

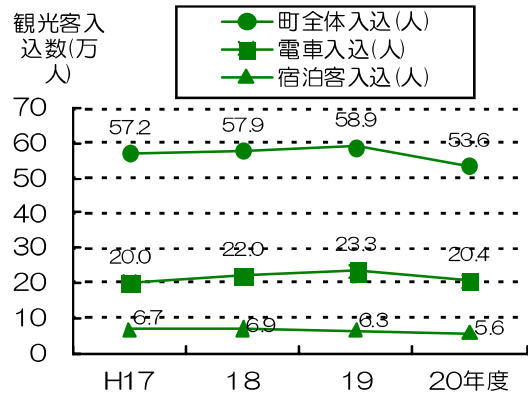
【資料：商業統計調査報告書】

(5) 観光

- ★ **本町は美しい溪谷や温泉、山岳、SL、星空など観光資源に恵まれています。**
- ★ **本町を訪れる観光客は年間約 53.6 万人です。**

本町には、本州唯一の原生自然環境保全地域がある大井川源流部や、南アルプスの最南峰である光岳、流域の美しい溪谷、山犬段のブナの原生林や大札山・外森山のアカヤシオ・シロヤシオなどの自然環境に恵まれています。また、寸又峡や接岨峡などの温泉、全国で唯一、常時運転しているSLやアプト式鉄道、素晴らしい星空が観察できる三ツ星天文台など、さまざまな観光資源があります。なお、平成20年に本町を訪れた観光客数は約53.6万人、宿泊客は約5.6万人でした。

観光は、地域活性化の有力な手段として、全国各地でその振興が図られていますが、本町でもお茶や温泉、森林などの豊かな地域資源を活かした交流人口の増加を図る取り組みが始まっています。



町内全体入込客・宿泊客の推移

【資料：商工観光課】

1-5 交通

(1) 筏流しと高瀬船

- ★ **大井川はかつて、筏流し、バラ狩り、高瀬船など、交通路として利用されてきました。**

かつて大井川は、山奥の巨木を川に流して平野に運ぶための交通路であり、古くは「日本書紀」(374年)にその記録があります。木材を組んで上流から下流に流送する「筏流し」や、木材一本一本をばらばらに流送する「バラ狩り」などは、発電用ダムが建設された明治末期から昭和初期まで行われていました。

また、江戸時代、幕府の方針で大井川に架橋と通船が禁じられていましたが、明治3年(1870年)になると島田や金谷、千頭方面に「高瀬船」が通じ、人々の重要な生活の足となりました。大正11年(1922年)にはプロペラ船も登場しています。昭和6年(1932年)に大井川鐵道が金谷-千頭間に開通するとともに、高瀬船も役割を終えました。

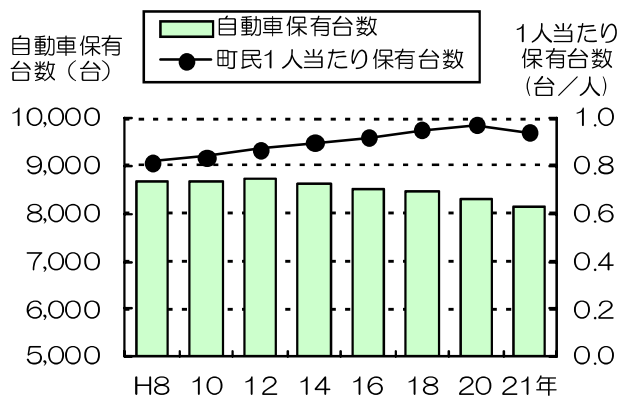
(2) 道路交通

- ★ **国道 362 号、国道 473 号、主要地方道・川根寸又峡線などの幹線道路があり、一般国道 362 号、主要地方道・川根寸又峡線では混雑度が高くなっています。**
- ★ **自動車保有台数は減少していますが、町民 1 人当たりの自動車保有台数は増加しており、県平均よりも高くなっています。**

本町への広域的なアクセスルートとしては国道 362 号、国道 473 号、主要地方道・川根寸又峡線、一般県道・接岨峡線などがあります。国道 473 号と県道は島田市へ向かって南に伸び、役場から島田市中心部へは約 33km、また、国道 362 号が東西を結んでいます。総合支所から静岡市の中心部まで約 40 kmとなっています。なお、国道 362 号の元藤川から崎平までの区間は、青部バイパスの整備が進められています。本町は道路延長に対する国道・県道が占める割合が高く、町内の主要な集落を結ぶ生活道路としての重要な役割も担っています。

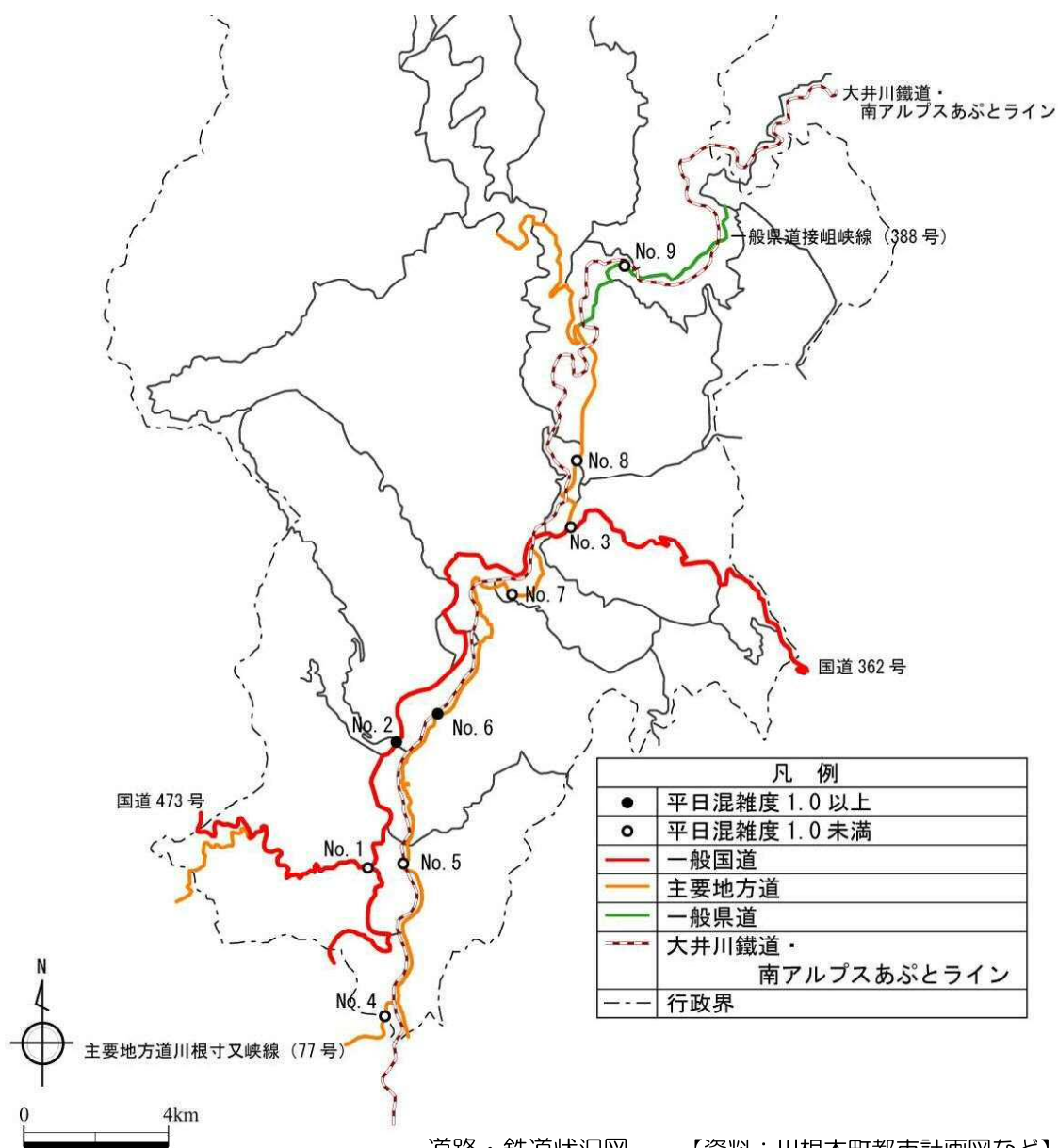
交通量は町内9地点で観測されており、平成17年の調査で特に混雑度の高い（混雑度1.0以上）路線は、一般国道362号、主要地方道・川根寸又峡線です。

本町の自動車保有台数は、平成12年以降減少していますが、町民1人当たりの自動車保有台数は平成20年までは増加しており、平成21年は0.94台/人と、県平均の0.84台/人を上回っています。



自動車保有台数の推移

【資料：静岡県自動車保有台数】



道路・鉄道状況図

【資料：川根本町都市計画図など】

(3)公共交通

- ★ **大井川鐵道があり、SL やアプト式鐵道が運転されています。**
- ★ **千頭駅と寸又峡温泉を結ぶ大井川鐵道の路線バス、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。**

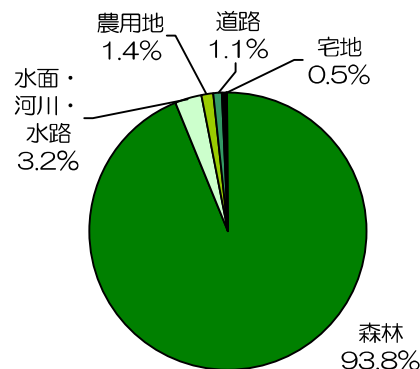
鐵道としては、JR 金谷駅と井川駅を結ぶ大井川鐵道があり、町内には 19 の駅が存在します。所要時間は、金谷駅から千頭駅までが約 70 分となっています。大井川鐵道の利用者は減少傾向にありますが、地域の児童・生徒や高齢者の足として重要な役割を果たしています。また、金谷駅から千頭駅間は電車以外に SL が営業運転されており、千頭駅から井川駅間は南アルプスあぶとラインとして、アプト式鐵道が運転されています。これらの SL やアプト式鐵道は来訪者から人気があり、観光資源としても貴重な存在となっています。

バス路線としては、千頭駅と寸又峡温泉を結ぶ大井川鐵道の路線バスや、町内各集落に連絡する町営バスが運行されています。

1-6 土地利用

- ★ **土地利用では森林の占める面積が約 94%となっています。**

平成 19 年の土地利用区分別面積をみると、森林（93.8%）が最も多く、農用地や宅地などは、いずれも 1%前後とわずかです。



土地利用区分別面積（平成 19 年）
【資料：国土利用計画（川根本町計画）参考資料】

1-7 情報インフラ整備状況

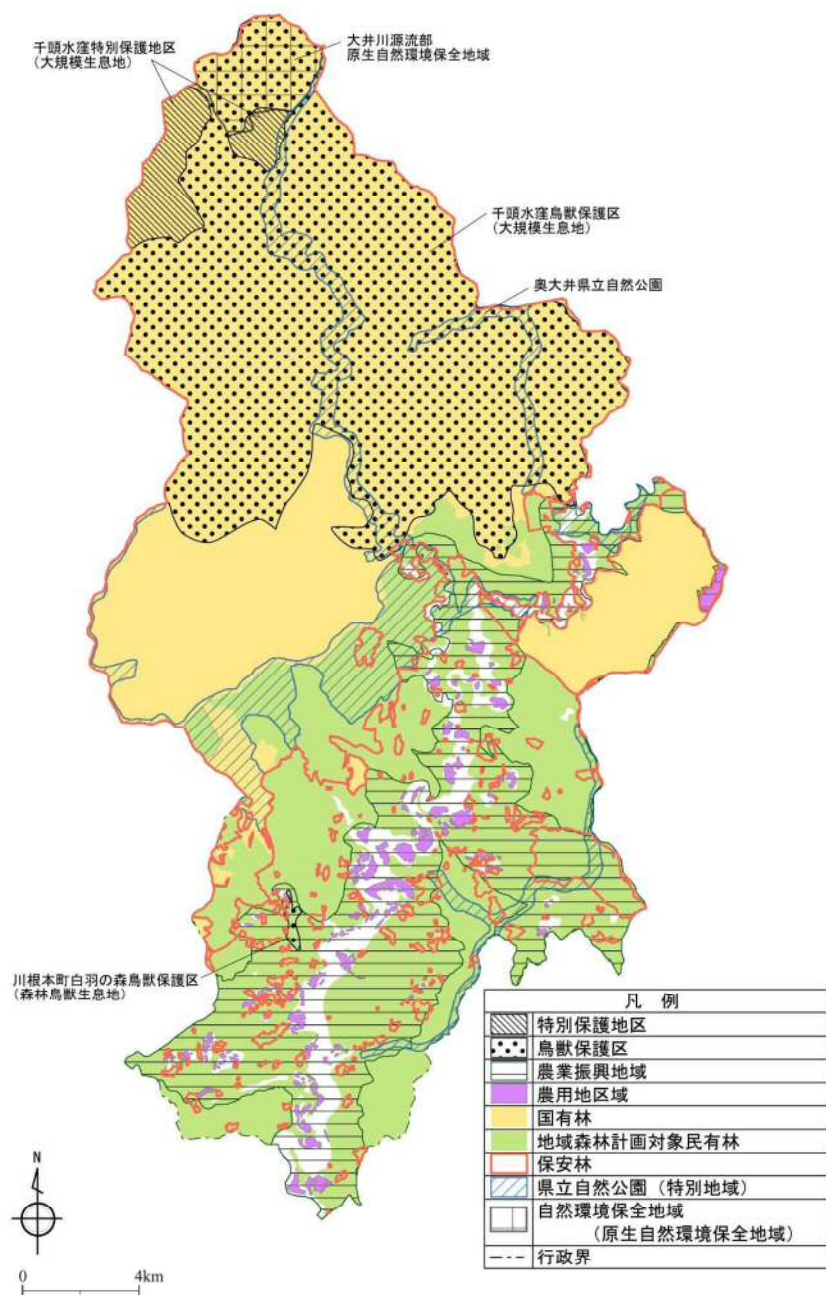
- ★ **世帯カバー率は、地上デジタル放送が 33%、携帯電話が 99%、ブロードバンドが 98%となっています。**

本町の情報インフラ整備状況をみると、平成 21 年 4 月現在の世帯カバー率は、地上デジタル放送が 33%、携帯電話が 99%、ブロードバンドが 98%となっています。地上デジタル放送は町全体の約 6 割の世帯、携帯電話は尾呂久保、壺町河内、下泉の一部、ブロードバンドは接岨、大間などの地域が未整備地区となっています。

1-8 法指定状況

- ★ **本州唯一の原生自然環境保全地域や、奥大井県立自然公園、鳥獣保護区及び特別保護地区などの地域指定がされています。**

本町には豊かな自然が残っていることから、本州唯一の原生自然環境保全地域や奥大井県立自然公園、鳥獣保護区及び特別保護地区などの地域指定がされています。



環境関連法令地域指定図 【資料：静岡県土地利用基本計画 ほか】

本州唯一の原生自然環境保全地域

本町の大井川源流部は、自然環境保全法に基づく原生自然環境保全地域に指定されています。このエリアは、人の活動によって影響を受けることなく原生状態を維持している地域であり、日本の自然保護地域制度の中で最も厳しい保護規制が行われています。全国では5地域、合計5,631haが指定されていますが、本州は大井川源流部だけです。ちなみに他の4地域は、遠音別岳(北海道)、十勝川源流部(北海道)、南硫黄島(東京都)、屋久島(鹿児島県)です。

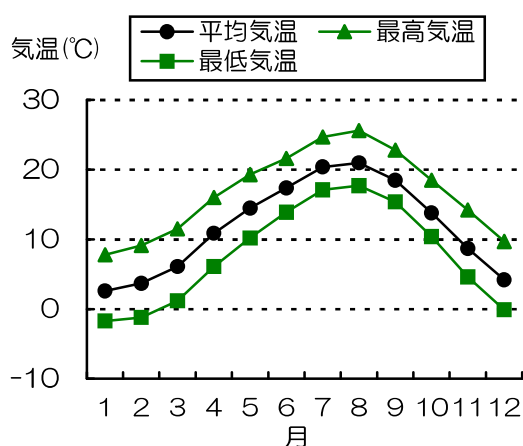


第2節 自然環境

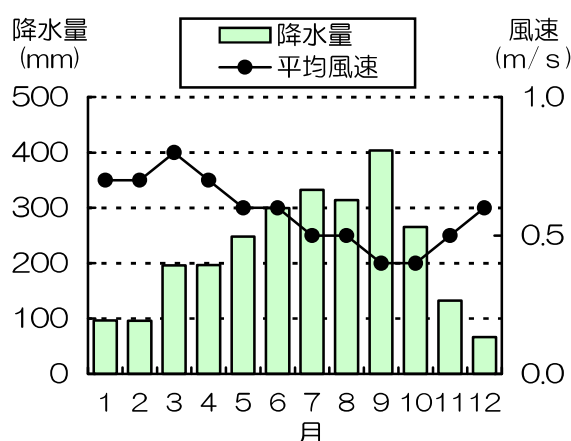
2-1 気象

★ 気温年較差や日較差が大きい地域です。

本町は太平洋岸式気候に属し、夏は太平洋の高温多湿な空気が吹き込むため雨が多く、冬には北寄りの季節風の影響により、空気は乾燥して少雨となります。最近 10 年間の平均気温は 11.8℃で、気温年較差や日較差が大きい地域です。年間降水量は約 3,000mm で、梅雨(6 月)から台風(10 月)の時期が多くなっています。10 年間の平均風速は 0.6m/s と比較的弱く、冬季に風が強くなります。また、冬季の積雪は少ないものの、氷点下になることが多くあります。



月別の気温（平成 10～19 年）
注）測定地は川根本町(アメダス地点)。
【資料：気象庁ホームページ】



月別の降水量と風速（平成 10～19 年）
注）測定地は川根本町(アメダス地点)。
【資料：気象庁ホームページ】

気象概要（月別）

月	平成 10～19 年				
	平均気温(℃)	最高気温(℃)	最低気温(℃)	降水量(mm)	平均風速(m/s)
1 月	2.6	7.8	-1.7	96.6	0.7
2 月	3.7	9.1	-1.2	96.3	0.7
3 月	6.1	11.5	1.2	196.4	0.8
4 月	10.9	16.0	6.1	196.5	0.7
5 月	14.5	19.3	10.2	248.0	0.6
6 月	17.4	21.6	13.9	299.7	0.6
7 月	20.4	24.7	17.1	332.5	0.5
8 月	21.0	25.6	17.7	313.8	0.5
9 月	18.5	22.8	15.4	403.6	0.4
10 月	13.8	18.5	10.4	265.4	0.4
11 月	8.7	14.2	4.6	132.8	0.5
12 月	4.2	9.7	-0.1	66.6	0.6
年間	11.8	16.7	7.8	2,648.1	0.6

注）測定地は川根本町(アメダス地点)。

【資料：気象庁ホームページ】

2-2 地形・地質

(1)地形

- ★ 標高差は 2,400m以上あり、最高地点は光岳の 2,591m です。
- ★ 8割以上が大起伏山地であり、中起伏山地、小起伏山地を含めた山地が 97%を占めます。

本町の標高差は 2,400m以上あり、最高地点は光岳の 2,591m です。

本町の地形は、大部分が大起伏山地（82.5%）、で、中起伏山地（12.7%）、小起伏山地（1.4%）を含めた山地が 97%を占めています。

北部は大井川本流及び寸又川流域にある赤石山地南部にあたり、川は峡谷と曲流をなし、森林美と溪谷美をもっていますが、山地崩壊も多く見られます。千頭付近はやや川幅が広くなり、低地と段丘・高位平坦面に集落は立地しています。旧河道や環流丘陵^{*1}も特色があります。南部は大井川の東側が下泉河内川流域山地、西側が榛原川・長尾川・境川流域山地となり、川底の浸食が進んで崩壊地も多く分布します。徳山・上長尾・下長尾地区は河岸段丘、旧河道、小扇状地、河谷低地など多彩な地形が見られます。

なお、国土地理院の「日本の典型地形」によると、本町では接岨峡（峡谷、穿入蛇行^{*2}）、寸又峡（峡谷）、大井川中流（穿入蛇行）、大間の還流丘陵（還流丘陵）、大井川中流の段丘（河岸段丘及び段丘崖）の 5 箇所・6 項目が選定されています。

^{*1} 環流丘陵：現在流れている河川の流路と、かつて流れていた河川の流路に囲まれてできた丘陵。

^{*2} 穿入(せんにゅう)蛇行：隆起ないし浸食面の低下のため、曲流していた川が下方浸食を復活し、曲流を保ちながら河床を基盤岩中に深く掘り込んで生じる。

典型地形

項目	名称	備考
峡谷	接岨峡	大井川、奥大井県立自然公園。
	寸又峡	大井川支流寸又川、奥大井県立自然公園。
穿入蛇行	接岨峡	大井川、奥大井県立自然公園。
	大井川中流	
環流丘陵	大間の環流丘陵	寸又川、奥大井県立自然公園。
河岸段丘及び段丘崖	大井川中流の段丘	

【国土交通省国土地理院技術資料 D・1-No.357・日本の典型地形】

(2)地質

- ★ 地質は、「四万十帯」と呼ばれる中生代後期白亜紀(約 8,000 万年前)から新生代古第三紀(約 5,000 万年前)にかけての堆積岩からなります。

本町の地質は、「四万十帯」と呼ばれる中生代後期白亜紀(約 8,000 万年前)から新生代古第三紀(約 5,000 万年前)にかけての堆積岩からなります。砂岩泥岩の互層で褶曲を受けて割れ目が発達し、さらに標高が高く気温差が大きいことから風化浸食が顕著です。また、降水量が多いことから崩壊地の拡大が大きく、生産された土砂は山腹や川床に堆積し、下流へ流出しています。

北部は緑色岩や赤色チャートを含む泥岩・砂岩からなる「白根層群」、砂岩を主とする「寸又川層群」、砂岩泥岩互層の「犬居層群」「三倉層群」が北東―南西の走向で帯状に配列します。風化作用や構造運動による破碎作用が進んで山地崩壊が多い地域でもあります。

南部は砂岩泥岩互層となる「寸又川層群」や「犬居層群」、泥岩、砂岩、乱雑層からなる「三倉

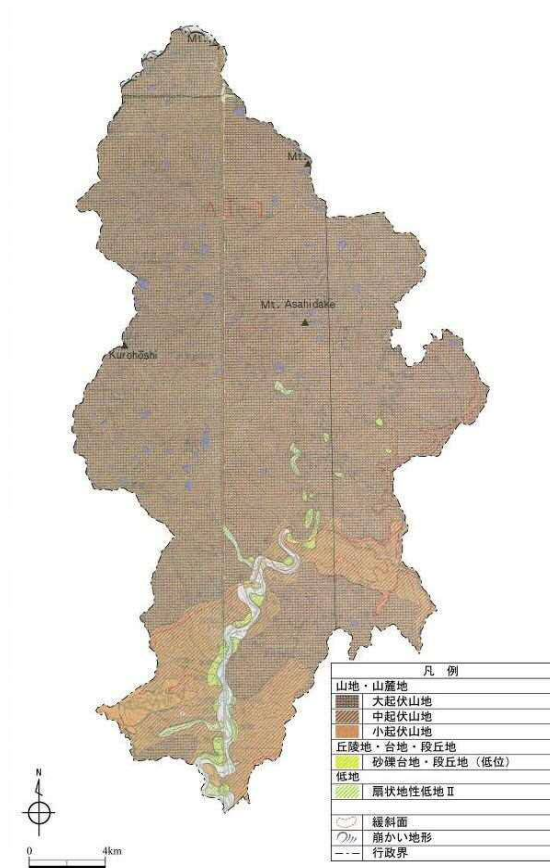
層群」の地層が分布します。北東南西方向の帯状配列と構造をもち、蛇紋岩も点在します。

なお、表層地質は礫岩、砂岩、泥岩、砂岩泥岩互層、緑色岩などのほとんどが固結堆積物（95.0％）であり、未固結堆積物（2.8％）はわずかです。

地質一覧表

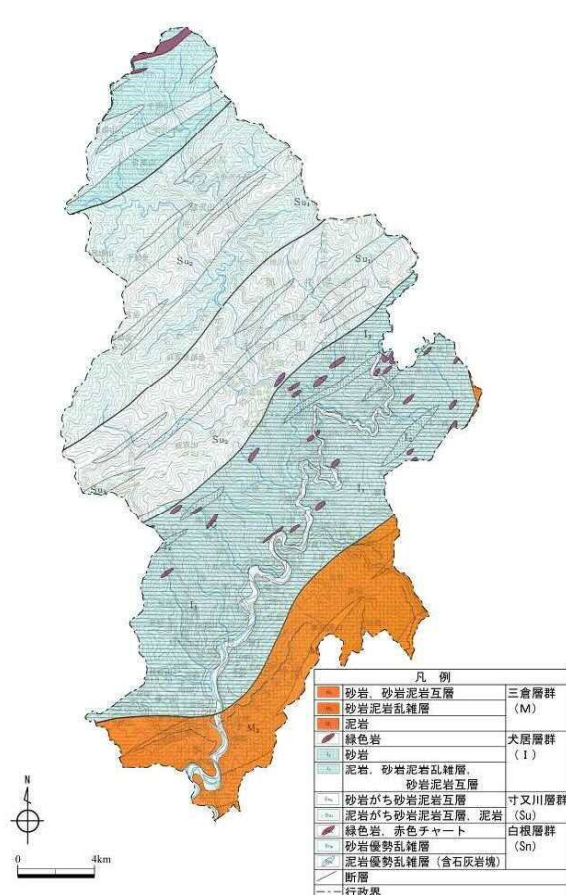
絶対年代	地質時代		地層名	構成する地層
約 2,400 万年前	新生代	古第三紀	三倉層群(M)	砂岩、砂岩泥岩互層、乱雑層、泥岩
約 6,600 万年前		白亜紀末～古第三紀	犬居層群(I)	緑色岩、砂岩、砂岩泥岩互層、乱雑層
約 8,000 万年前	中生代	後期白亜紀	寸又川層群(Su)	砂岩泥岩互層
			白根層群(Sn)	緑色岩、赤色チャート、乱雑層

【資料：静岡県地質図】



地形区分図

【資料：静岡県土地分類図付属資料】



地質図

【資料：静岡県地質図】

2-3 河川・ダム・湧水・温泉保養地

(1)河川

- ★ 町内には一級河川の大井川があり、穿入蛇行や河岸段丘など、特徴的な地形が見られます。
- ★ 大井川はその昔、筏流しや水運、漁業など町民生活と密接な関わりがありましたが、現在ではその関わりが薄らいでおり、水量の減少や水の濁りなどの問題も指摘されています。
- ★ 「水の郷百選」や「静岡県のみずべ100選」などに選定されています。

町内の河川には、一級河川の大井川や準用河川・普通河川などがあります。

本町の中央を二分する形で南北に流れている大井川は、静岡県・長野県・山梨県の県境にある間ノ岳（標高3,189m）を源とし、駿河湾に注ぐ河川延長168km、流域面積1,280km²の一級河川です。大井川は、山間部でも流路が曲流している「穿入蛇行」という地形が見られ、安倍川や天竜川には見られない、大井川の特徴のひとつになっています。この地形は、赤石山地の著しい隆起のため、河川の流路に地質構造が関与してできたものです。また、河岸段丘がよく発達する河川でもあり、段丘面に多くの集落が形成されています。

大井川はその昔、筏流しや水運、漁業など町民生活と密接な関わりがありましたが、ダムの建設や交通網の整備、ライフスタイルの変化により、現在ではその関わりが薄らいでおり、水量の減少や水の濁りなどの問題も指摘されています。

また、川に関する百選認定として、「水の郷百選（水と緑の文化をはぐくむ）」（国土交通省）や「静岡県のみずべ100選」にも選ばれています。

一級河川・準用河川一覧

種別	河川数	河川名
一級河川	16	大井川、川根境川、下泉河内川、中津川、川根長尾川、水川川、榛原川、小長井河内川、寸又川、関ノ沢川、横沢川、栗代川、大間川、平野沢、湯沢、奥湯沢
準用河川	21	サカシ沢川、杉沢川、桃沢川、田原沢川、柿間沢川、神谷沢川、杵列沢川、ミノ上沢川、清水沢川、坂京河内川、三ツ野沢川、神光寺沢川、筒沢川、椿沢川、沢奥沢川、門前川、大間沢川、本沢川、幡住川、幡住川派川、島沢川

注）町内に二級河川はない。

【資料：静岡県河川指定調書（平成20年4月1日現在）】

一級河川の河川延長・流域面積

水系名	支川名			河川延長(m)	流域面積(km ²)		
	第1次	第2次	第3次		支川流域	自己流域	計
一級河川 大井川	大井川			168,290	778.99	501.01	1,280.00
	川根境川			3,000		13.14	13.14
	下泉河内川			1,800		17.20	17.20
	中津川			700		3.64	3.64
	川根長尾川			2,000		16.99	16.99
	水川川			1,100		6.75	6.75
	榛原川			1,000		24.33	24.33
	小長井河内川			3,200		14.09	14.09
	寸又川			16,570	90.57	162.94	253.51
		横沢川		2,200		9.01	9.01
		栗代川		4,500		28.37	28.37
		大間川		4,400	3.39	47.18	50.57
			湯沢	300		1.19	1.19
			奥湯沢	300		2.20	2.20
		平野沢		300		2.62	2.62
	関ノ沢川			3,000		28.67	28.67

【資料：静岡県の河川便覧】

本町の河川に関する百選認定状況

項目	選定地点	概要
水の郷百選（水と緑の文化をはぐくむ）（国土交通省）	「川霧沸き立つグリーンゾーン・かね郷」（川根本町・島田市）	大井川に清流を復活させるなど、河川環境の保全に積極的に取り組んでいる。大井川の川霧による高品質のお茶の生産も盛んであり、「流したい」などの伝統行事も伝承・保存されている。
静岡県のみずべ100選（静岡県）	大井川・塩郷堰堤付近	塩郷堰堤の付近には、長さ 220mの大吊橋や松島グリーンコースと呼ばれるハイキングコースなどがあり、川の景色を堪能できる。
	大井川・レインボープリッジ付近	日本唯一のアプト式鉄道の奥大井湖上駅両側にあるレインボープリッジ。眼下に広がる眺めは素晴らしく、大井川水系の独特の緑色の水とともに美しい水辺を形成。
	寸又川・夢の吊り橋付近	寸又川を代表する夢の吊り橋は、美しい渓谷に架けられた90mの吊橋。水に映る景色は季節ごとに趣を変え、大自然の魅力をありのままに伝えてくれる。

【資料：水の郷百選、静岡県のみずべ100選】

(2)ダム

- ★ 町内には長島ダム、大井川ダム、千頭ダム、大間ダム、寸又川ダム、境川ダムの6つのダムがあります。
- ★ 河川流量の減少や河床の上昇、ダム湖への堆積土砂、流出土砂の減少による海岸浸食などが大きな問題となっています。

本町には、主要なダムとして長島ダム、大井川ダム、千頭ダム、大間ダム、寸又川ダム、境川ダムの6つのダムがあります。長島ダムは多目的ダムで、洪水調節、流水の機能の維持、かんがい、水道用水の供給を目的としています。長島ダム以外は発電を目的にしたダムです。

なお、久野脇にある塩郷堰堤は、堤高 3.2m の水力発電用取水ダムであり、一般的には「塩郷ダム」と呼ばれていますが、河川法上におけるダムの定義である 15.0m に満たないため、堰として扱われています。

これらのダムは、発電や洪水調節など、私たちに多くの恩恵を与えていると同時に、河川流量の減少や河床の上昇、ダム湖への堆積土砂、流出土砂の減少による海岸浸食などが大きな問題となっています。



長島ダム

町内のダム一覧

河川名	ダム名	形式	目的	堤高 (m)	堤頂長 (m)	流域面積 (km ²)	総貯水容量 (km ³)	竣工年
大井川	長島ダム	重力式	多目的	112.0	292.0	534.3	78,000	2002 年
	大井川ダム	重力式	発電	33.5	65.8	537.0	503	1936 年
寸又川	千頭ダム	重力式	発電	64.0	177.7	132.0	4,950	1935 年
	大間ダム	重力式	発電	46.1	106.9	201.6	1,519	1938 年
	寸又川ダム	重力式	発電	34.9	58.8	240.9	987	1936 年
境川	境川ダム	重力式	発電	34.2	83.8	11.96	1,173	1943 年

注）長島ダムは、洪水調節、不特定用水、かんがい、上水などを目的とした多目的ダムである。

【資料：静岡県の河川便覧】

(3)湧水

★ 昔より湧水量が減少している湧水が多いですが、「ときどんの池」や「小長井の湧水」では今も通年で湧水があります。

「静岡県のわき水マップ（湧水レッドデータ）」によると、本町では8箇所の湧水がリストアップされており、そのうちの6箇所では消滅危惧レベル 4（昔はもっと多かった）となっています。このうち、徳山の「ときどんの池」では、ボランティアグループによって水辺の整備・保全が行われています。また、「小長井の湧水」は昔から地元の生活水として使われ、今も洗い場跡が残っています。かつては周辺にも湧水がたくさんありましたが、安定して残っている場所は少なくなっていました。



ときどんの池

町内の湧水とその消滅危惧レベル

消滅危惧レベル（レベル1～5）	名称・通称
レベル2（通年で湧水が見られる）	たいざ川（ときどんの池）、千頭2（小長井の湧水）
レベル4（昔はもっと多かった）	水川1、田野口1、梅地1、奥泉、千頭1、井の上清水

注）消滅危惧レベル 1：通年で多量の湧水 2：通年で湧水が見られる

3：季節で減る時季がある 4：昔はもっと多かった 5：現在は枯渇している

【資料：静岡県のわき水マップ（湧水レッドデータ）、静岡県の湧き水 100】

(4)温泉保養地

★ 町内には、接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉の4つの温泉保養地があります。

町内には、接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉の4つの温泉保養地があります。

温泉は「火山性の温泉」と「非火山性の温泉」に大別できますが、本町の温泉は周辺に火山がないため「非火山性温泉」と考えられます。地下では一般的に100m毎に約3℃地温が上昇するといわれています。例えば、地表の温度が15℃の時、地下1,000mの地温は45℃となります。降水が地中にしみ込んで地下水となり、この地下水が地熱を熱源として温められ、断層などの地下構造や人工的なボーリングなどによって地表に湧き出してきたものが、非火山性温泉です。本町の温泉もこのようなメカニズムで形成されているものと考えられます。

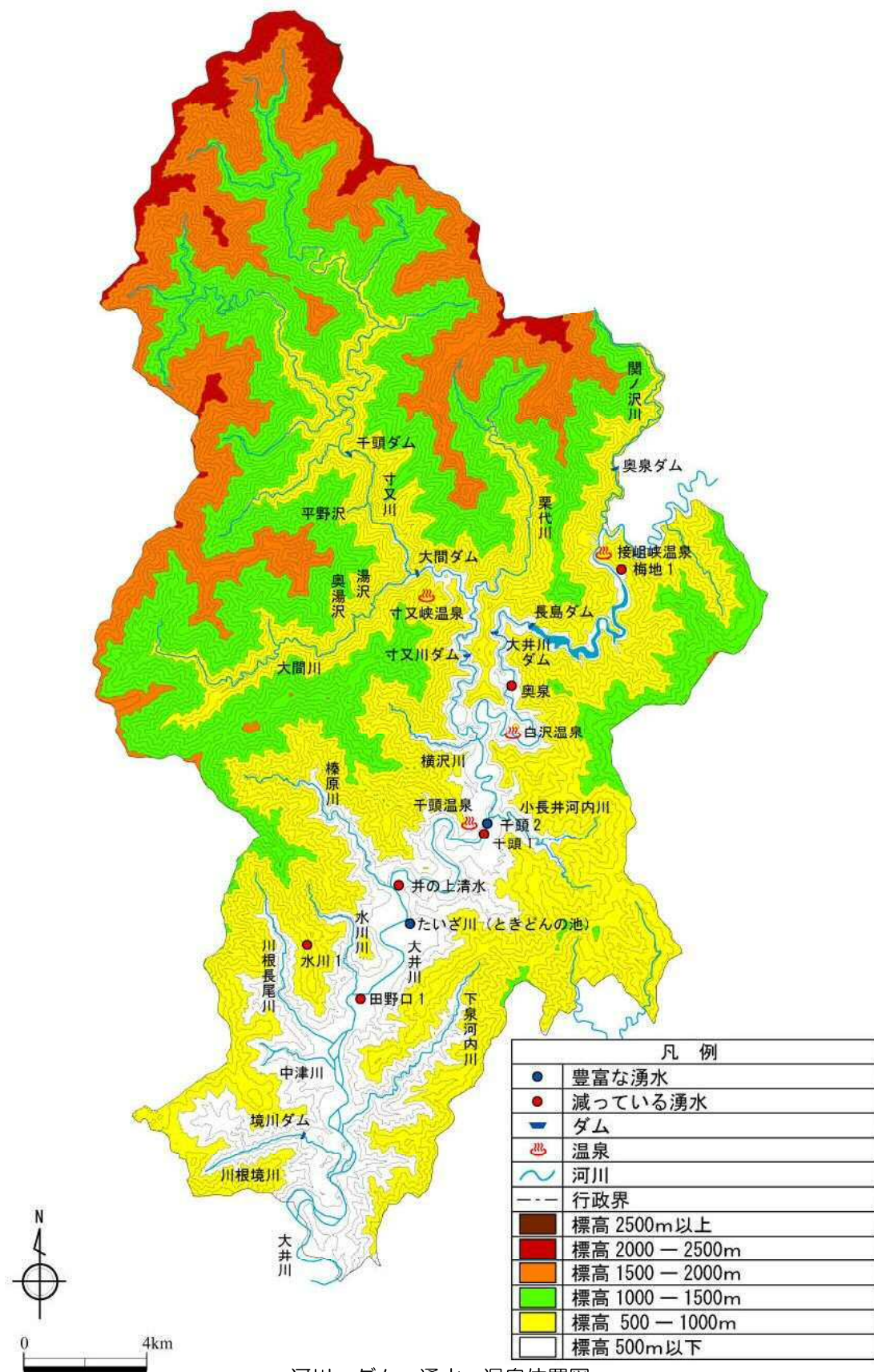


寸又峡温泉

町内の温泉保養地とその特性

名称	特性
接岨峡温泉	泉質は重碳酸ナトリウム泉で皮膚の分泌を促進し、清浄にすることから「若返りの秘泉」と呼ばれている。
寸又峡温泉	泉質は硫化水素系・単純硫黄泉で、湯上がりの肌のつるつるすべすべとした感じが特徴。その効用から「美女づくりの湯」として知られている。
千頭温泉	平成9年に源泉が湧出した新しい温泉で千頭駅周辺の旅館に引湯されている。泉質は単純温泉。
白沢温泉	ナトリウム炭酸水素塩泉（重曹泉）で、神経痛・慢性消化器病・冷え性・疲労回復・健康増進・やけど等に良いとされている。

【資料：川根本町まちづくり観光協会 ほか】



河川・ダム・湧水・温泉位置図

【資料：静岡県の河川便覧、静岡県のわき水マップ、静岡県の湧き水 100 など】

2-4 動植物の分布

(1) 植生

- ★ 低地帯から高山帯の多様な植生が見られます。
- ★ 植林や代償植生が広く分布していますが、高標高地には自然植生がまともに残されています。
- ★ 原生自然環境保全地域における森林植生をはじめ、多くの特定植物群落や杜寺林などが注目すべき植物群落および植生等としてあげられます。

本町は約97%が山地で、大井川の本流や支流に沿って段丘・低地が細長く分布します。山地は大部分が森林で占められていますが、二次林などの代償植生（さまざまな人為的影響が加えられた後に成立した植生）や植林といった、人との関わりの中で成立した植生が多く分布します。一方、段丘・低地は住宅地や耕作地に利用されています。

また、本町は標高約200～2,600mと垂直的な広がりをもっているため、低地帯、山地帯、亜高山帯、高山帯の4つの主要な植生帯がすべて分布し、各植生帯特有の自然植生が山地や河川に残されています。特に高標高地には自然植生がまともに残されており、大井川源流部は本州唯一の原生自然環境保全地域に指定されています。

①環境別の植生

ア. 山地

高山帯に位置する本町の最高地点・光岳（標高2,591m）には、高山帯で最も代表的なハイマツ低木林が分布し、ハイマツの群落として南限にあたります。

亜高山帯（標高約1,800～2,500m）には、低標高地に比べると自然植生が多くみられ、シラビソ、コメツガ、トウヒなどの常緑針葉樹林が主体となっています。一方、森林の伐採によって生じた代償植生として、先駆性の高いダケカンバやミヤマウラジロイチゴなどからなる群落があります。

山地帯（標高約800～1,800m）になると、植林や代償植生が多くなってきます。植林はスギ林などの他に、カラマツ林もみられます。代償植生は落葉広葉樹林のシデ林やミズナラ林が主となっています。自然植生は常緑針葉樹林のツガ林や落葉広葉樹林のイヌブナ林がよく目につきます。溪谷にはシオジ林が局所的に分布し、溪谷林として美しい景観です。

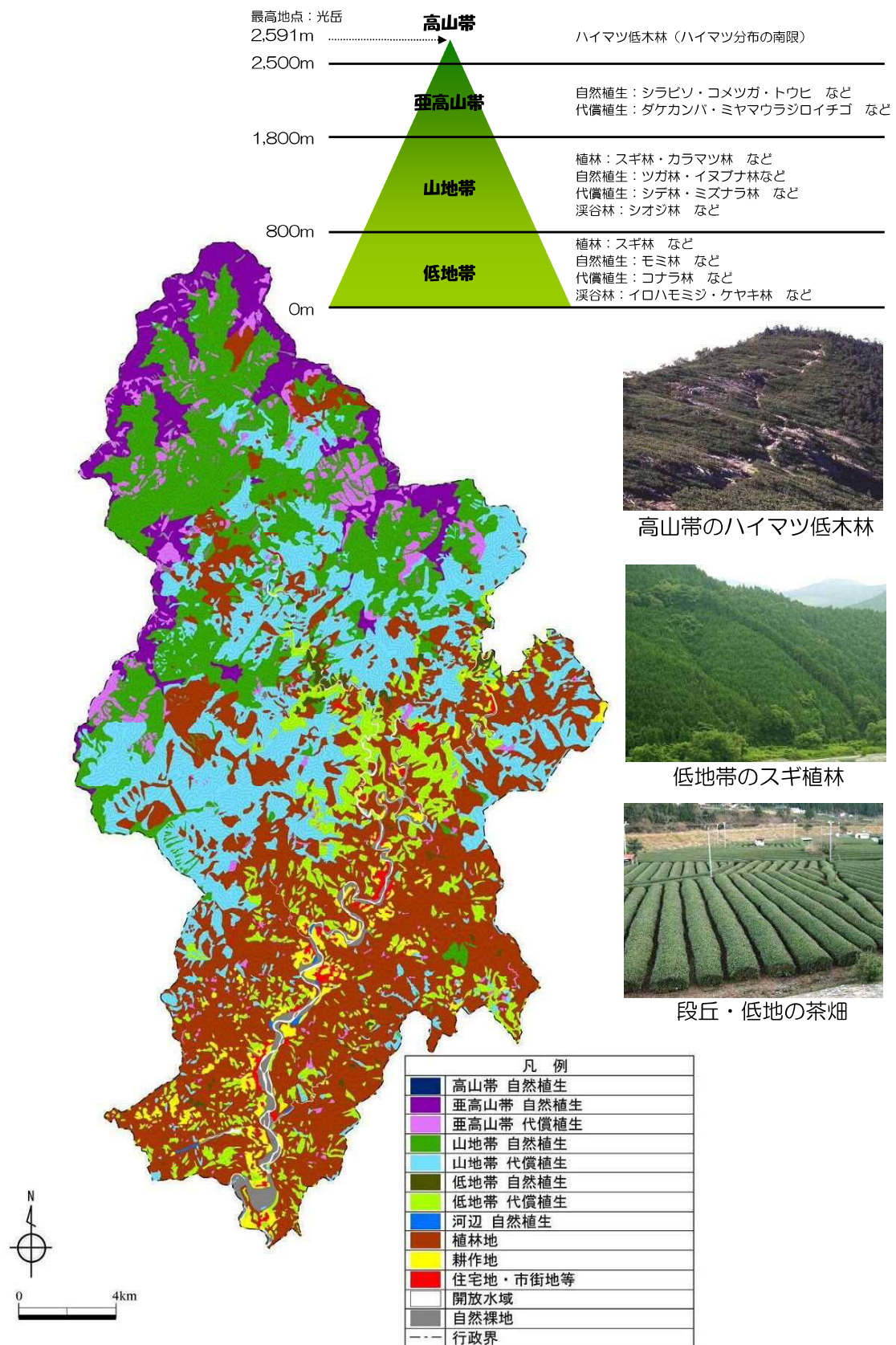
低地帯（標高約800m以下）になると、スギなどの植林やコナラ林などの代償植生が大部分を占めるようになります。自然植生は少ないものの、尾根部に発達する常緑針葉樹林のモミ林が比較的よく残っています。また、溪谷林としてイロハモミジやケヤキの樹林がみられます。

イ. 段丘・低地

大井川に沿って細長く分布する段丘・低地は、ほとんどが住宅地や耕作地などに利用されています。耕作地は茶畑が主ですが、水田も小規模ながら南部に点在しています。

ウ. 河川

大井川は急勾配で河道がきわめて不安定な河川であるため、河川敷に砂や礫の自然裸地が広がりますが、やや安定した所では冠水や急流に強いヤナギの高木林、ツルヨシ草地などの河辺自然植生がみられます。



植生図

【資料：自然環境情報 GIS データ 第2-5回自然環境保全基礎調査・現存植生調査】

②注目すべき植物群落・植生

環境省の「特定植物群落」「現存植生図における自然植生」、静岡県「特定植物群落」「静岡県自然環境基本調査における調査対象社寺林」などから、本町の注目すべき植物群落・植生を選定しました。

その結果、原生自然環境保全地域における森林植生をはじめ、多くの特定植物群落や社寺林などが注目すべき植物群落および植生等としてあげられます。

本町の注目すべき植物群落および植生等(1)

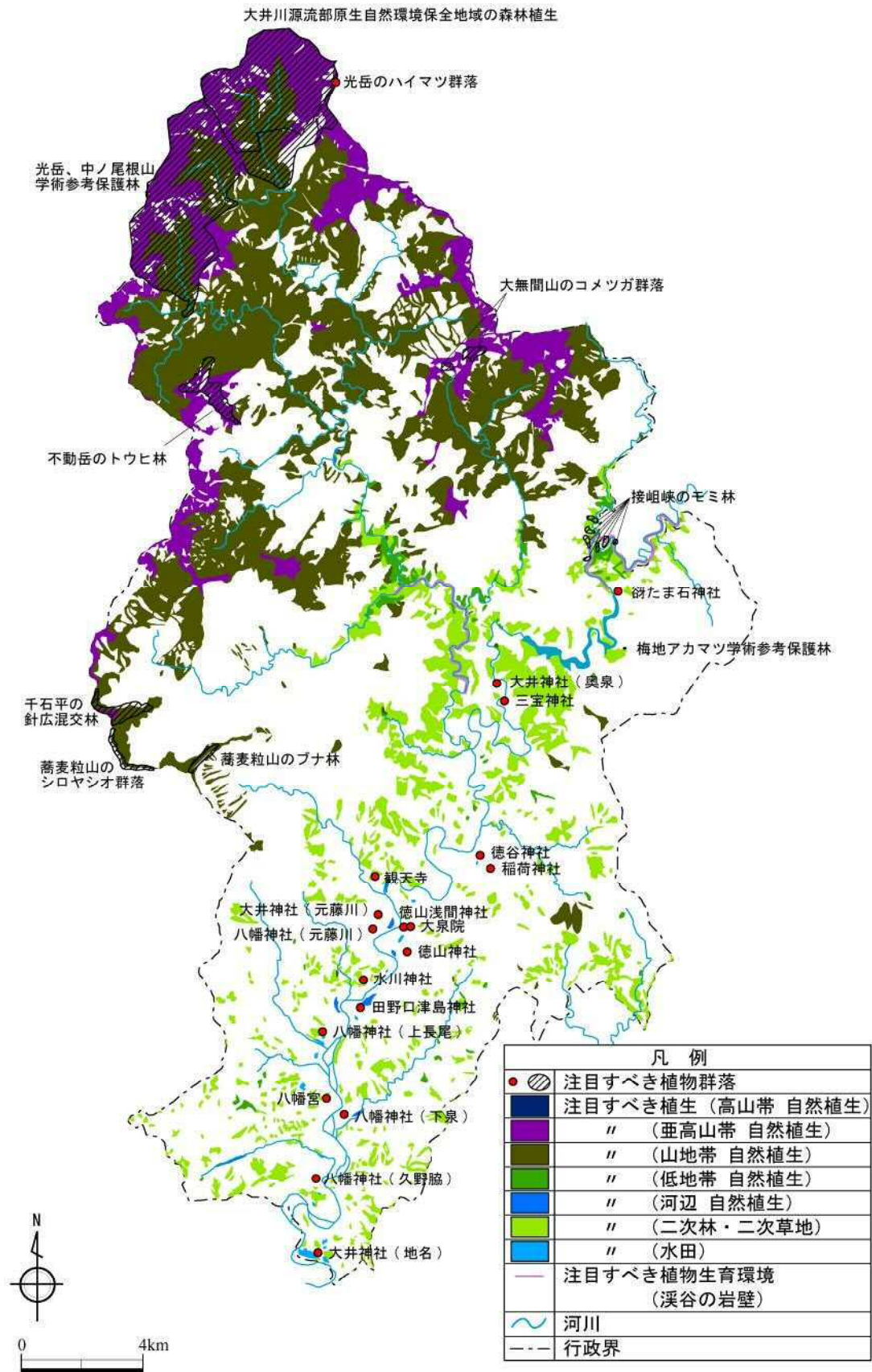
群落・植生の名称		概要
1	梅地アカマツ学術参考保護林*1	胸高直径70cm、樹高30mを超える見事なアカマツの樹林で、周囲の若いスギ植林の中に、そこだけ異質な世界のように見える。大井川流域で最も樹木が大きく立派なアカマツ林として貴重である。
2	接岨峡のモミ林	接岨峡の急峻な斜面の尾根上にカシ類を交えたモミ林が顕著な森林景観を作っている。比較的若い林分とみられるが、密度や規模において静岡県でも有数のものである。
3	蕎麦粒山のブナ林	蕎麦粒山から山犬段にかけての一帯にはブナの巨木が繁り、原生的な世界が広がっている。ウラジロモミやツガの針葉樹が混交し、シナノキ、オオイタヤメイゲツなども多く、南アルプスらしい混交林としてのブナ林となっている。
4	蕎麦粒山のシロヤシオ群落	蕎麦粒山から鋸山へ至る稜線部はトウヒ、シナノキ、ブナ、カエデ類の多い原生林で被われており、林内には白い花を咲かせるシロヤシオの巨木が群生し、開花期はすばらしい山岳風景となる。
5	大無間山のコメツガ群落	大無間山の西側稜線に広がるコメツガの純林で、コメツガの巨大なものは胸高直径1mを超える。
6	不動岳のトウヒ林	不動岳山頂部の亜高山帯には、トウヒの原生林が純林を成して繁っている。その中でも不動岳山頂北側にある平坦地のトウヒ林は、樹高30mに達する巨木群で、すばらしい森林景観をつくっている。
7	大井川源流部原生自然環境保全地域の森林植生	本州で唯一の原生自然環境調査保全地域に指定されている地域で大井川源流部に位置する。面積は1,115haで、太平洋岸における山地帯から高山帯に至る典型的な垂直分布が見られる。広大な寸又川流域の原生林の一角をなす貴重なものとして厳重な保護が図られている。
8	千石平の針広混交林	広い面積を有する平坦な尾根にシラビソ、トウヒなどの常緑針葉樹を主とし、ダケカンバ、ブナなどの落葉広葉樹が混生する原生林が繁っている。樹木はいずれも巨木である。
9	光岳、中ノ尾根山学術参考保護林*2	光岳から寸又川右岸の2,000mを超える山々を連ねる一帯で、大井川源流部原生自然環境保全地域を含む。自然が原生的な状態で残っている地域で、山地帯から高山帯に至る典型的な垂直分布が残されている。
10	光岳のハイマツ群落	高山帯の常に強風が吹き付ける風衝地に形成するマツ科の匍匐（ほふく）性常緑針葉樹ハイマツの群落で、イザルガ岳（静岡市）を含む光岳一帯に成立し、ハイマツの群落として南限にあたる。
11	大井神社（地名）	旧地名保育園向かい側の小高い丘の社寺林。樹高15～20m、胸高直径30cm程のスギ・ヒノキの植林で、神殿の近くには比較的大い（胸高直径30～60cm）スギが多い。西斜面にはシイが多い。
12	八幡神社（久野脇）	塩郷堰堤近くの小高い丘にある社寺林。スギ、ヒノキの植林が多い。樹高は20m前後で、胸高直径は20～30cmのものが多くある。
13	八幡神社（下泉）	下泉にある社寺林で、樹高20～25m、胸高直径20～30cm程のスギが広く植林されている。神殿と石段の近くには胸高直径60～70cmのスギがある。
14	八幡宮	下長尾にある社寺林で、神殿の横から後方には樹高25～30mのスギが10本ほど立ち、スギのほかはヒノキ、クスノキなどが登り斜面に密生している。神殿に向かって右側後方には竹林がある。
15	八幡神社（上長尾）	上長尾にある社寺林で、全域スギ、ヒノキの植林である。神殿の前には樹高20～25mのスギが間隔をおいて20～25本立っている。神殿の後方登り斜面の林は密生している。
16	田野口津島神社	全域スギの植林地で、神殿後方の登り斜面には細いスギが密生しているが、神殿の周囲には大木が10本前後ある。また、神殿に向かって右後方に県指定天然記念物の五本杉がある。
17	水川神社	山腹にあり、茶畑の間を歩いて神社の林へと続く。鳥居から神殿までの石段の両側はスギ、ヒノキの植林で本数は多くはないが、どの木も高い（樹高25～30m）。
18	徳山神社	神殿に向かって左側にゆるい下り斜面があり、全域スギの植林地である。神殿と広場の周囲を大きなスギ（樹高30m）が囲んでいる。
19	大泉院	一部スギが植えられているが、スダジイ、アラカシ、クスノキ、イチイガシ、ケヤキ、カヤ、ツブラジイを中心とした常緑広葉樹林である。山門の右端に樹齢400年以上という大きなスギ（俗称：天狗杉）がある。

本町の注目すべき植物群落および植生等(2)

群落・植生の名称		概要
20	八幡神社 (元藤川)	万世橋を渡り、すぐ南の小高い丘に繁る社寺林。特に大きな木はなく太いものでも胸高直径30～40cmであるが、種類は雑多でスギ、ヒノキ、ツガ、スタジイ、ウラジロガシ、ツブラジイ、モミ、ウラジロモミなどが密生している。
21	大井神社 (奥泉)	奥泉の社寺林で、鳥居をくぐり石段を登る右側には竹林がある。左側にはカシ類が優占する樹高20～25mの樹林で、アラカシ、イチイガシ、スギ、イヌシデなど種類が豊富である。神殿の前の開けた広場(中学校跡地)の周囲には桜が植えられている。
22	徳山浅間神社	神殿の背後の斜面全域にわたる樹高25～30mのスギ、ヒノキの植林で、シイやアラカシも混生している。神殿の前の左右に2本のスギの巨木(県指定天然記念物)がある。
23	観天寺	本堂の背後は竹林で、それ以外はほとんどスギ植林である。スギ植林は樹高20～30mに及び、本堂に登る石段の両側には樹齢200年程のスギが5～10本ある。
24	稲荷神社	茶畑を前にし、山を背にした小高い丘にある社寺林。ヒノキ植林にやや大きなツクバネガシが混生する。林内にはアセビやミツバツツジなどツツジ科の樹木が優占し、林床にはミツバツツジの芽生えが多い。
25	徳谷神社	樹高25～30mのスギ植林で、林床は植物の種類が非常に多く一面を覆っている。町指定史跡となっている小長谷城址がこの神社にあり、社寺林の中に本丸、二の丸の跡がある。
26	三宝神社	樹高25～30mのスギ植林でツガもみられる。林内にはサカキ、アオキなどが密生している。鳥居をくぐると真正面にスギの大木(胸高直径1.3m)がある。
27	大井神社 (元藤川)	社殿を取り囲む樹高20m程のスギ植林で、スタジイ、ツクバネガシ、イチイガシ、アバマキ、アラカシ、ハリモミ、クスノキなどの常緑広葉樹が多い。
28	飢石神社	石段を登る両側にある樹高15m程のスギ、ヒノキ植林でツクバネガシが混生している。林内にはツクバネガシやツガの低木が多くみられる。
29	高山帯自然植生	現存植生図の高山帯自然植生。標高2,500m付近以上の高標高地に発達する植生で、本町では高山帯の風衝地で枝を横に這って生育するハイマツの低木林が存在する。
30	亜高山帯自然植生	現存植生図の亜高山帯自然植生。標高1,800～2,500m付近に発達する植生で、本町ではシラビソやオオシラビソ、キタゴヨウなどの常緑針葉樹林が主体となっている。不安定な場所にはダケカンバ林が成立する。
31	山地帯自然植生	現存植生図の山地帯自然植生。標高800～1,800m付近に発達する植生で、本町では山地帯自然植生を代表するブナ林がみられるが、ツガ林が主体をなしている。渓谷には小規模であるがシオジやトチノキなどの渓谷林がみられる。
32	低地帯自然植生	現存植生図の低地帯自然植生。標高200～800m付近に発達する植生で、本町では低地帯の上部に発達するモミ林が多い。渓谷には小規模であるがケヤキやイロハモミジなどの渓谷林がみられる。
33	河辺自然植生	現存植生図の河辺自然植生。洪水や増水により常に不安定な立地条件にある河辺には冠水に強いヤナギなどの群落が発達する。本町では、河川敷にコゴメヤナギの高木林やツルヨシ草地がみられる。
34	二次林・二次草地	現存植生図の低地帯代償植生のうち、薪や肥料など様々な資源を得る場所として維持管理されてきたいわゆる雑木林やススキなどの草地。二次林や二次草地を生育地とし依存する植物が存在するが、生活様式の変化に伴い管理が放棄され、遷移の進行や開発によりこれらの植物の生育が脅かされている。
35	水田	現存植生図の耕作地のうちの水田。本来の目的は食料(米)生産であるが、保水・遊水機能、水質浄化機能、気候の緩和や大地の安定化に寄与し、水生植物や湿生植物の生育を支えている。しかし、稲作の放棄による草地化、埋め立て、水田の乾田化、農薬などにより、水生植物や湿生植物の生育が脅かされている。
36	渓谷の岩壁	接岨峡や寸又峡といった深い谷を刻む渓谷の岩壁は、高い空中湿度に生育する着生ラン、湿った岩場に生育する植物、洪水や乾燥に耐える溪流植物など、渓谷の岩壁特有の植物がみられる。

注) *1,2: 旧保護林制度の名称。現在は、*1: 植物群落保護林(梅地のアカマツ林)、*2: 森林生態系保全地域(南アルプス南部光岳)・植物群落保護林(中ノ尾根山の森林)。

【資料: 日本の重要な植物群落(東海版)Ⅰ・Ⅱ、静岡県の植物群落—静岡県の自然環境シリーズ、静岡県自然環境基本調査 社寺林調査報告書(中間報告)、自然環境情報 GIS データ 第2-5 回自然環境保全基礎調査・現存植生調査】



(2)町内に生育する植物

- ★ 植物は 1,874 種が確認されており、低地帯から高山帯までのさまざまな植物がみられます。
- ★ 巨樹が 39 本確認されています。

①植物相の概要

本町の植物は 1,874 種の記録があり、標高差が大きいため、低地帯から高山帯までのさまざまな植物がみられます。本町は植物地理学でいう「ソハヤキ地区」の東限にあたり、同地区に特有なモチツツジ、イワユキノシタ、ナベワリなどが生育しています。また、地形や人間の関わりに応じて多様な環境が成立するため、それぞれの環境に適応したものが生育し、植物相の種類も豊富です。さらに、本町は接岨峡や寸又峡といった深い谷を刻む渓谷があるため、渓谷の岩壁に生育する着生ランや渓流植物などが本町の植物相を特徴付けているといえます。

本町の観光資源であるアカヤシオとシロヤシオはツツジ科の植物で、山地帯の尾根筋の岩場などに生育します。アカヤシオは 4～5 月に淡い紅色の花を、シロヤシオは 5 月～6 月上旬に白い花を咲かせ、春から初夏の山を彩ります。

なお、絶滅の可能性のある種として、アゼオトギリやカギガタアオイなど 121 種が確認されています。



アカヤシオ



シロヤシオ

【川根本町おろくぼからの自然散策ホームページ】

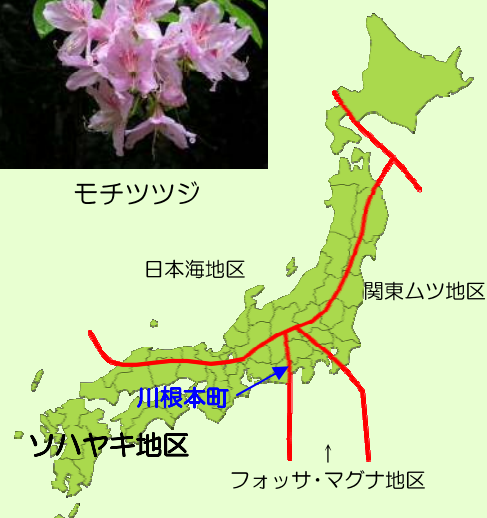
ソハヤキ地区とは？

ソハヤキ地区とは日本の植物区系（植物相を分布的な特性をもとに分けた地区）のひとつで、第三紀（約 6,000 万年前）から現在まで陸地だった九州、四国、愛知県以西の本州太平洋側などを含む地区を指します。ソハヤキは「襲速紀」と書き、南九州の古名である「熊襲（くまそ）」の襲、豊予海峡をさす「速吸瀬戸（はやみずのせと）」の速、「紀伊国（きのくに）」の紀を組み合わせた言葉です。中国大陸西南部とも関係の深い植物が多くあります。

静岡県の植物分布は、大きく分けると東部・伊豆地域の「フォッサ・マグナ地区」、中部・西部地域の「ソハヤキ地区」に分けられ、本町周辺がその東限にあたります。



モチツツジ



【資料：フォッサ・マグナ要素の植物】

生育環境別の主な植物

生育環境		自然植生の植物相	代償植生の植物相
山地	高山帯	【ハイマツ低木林】 ハイマツ、ハクサンシャクナゲ、タカネ ナナカマド、ウラジロナナカマド、コケ モモ、イワカガミ、コガネイチゴ、ゴゼ ンタチバナ、クロウスゴ、ガンコウラン、 ミヤマダイコンソウ など	
	亜高山帯	【シラビソ林など】 シラビソ、オオシラビソ、トウヒ、コメ ツガ、ナナカマド、ダケカンバ、セリバ シオガマ、オサバグサ、ミヤマアオスゲ、 コイチヨウラン、ヒロハユキザサ など	【伐採伐跡群落など】 ミヤマウラジロイチゴ、ゴヨウイチゴ、 ナナカマド、ダケカンバ、ミネカエデ、 オガラバナ など
	山地帯	【ツガ林、イヌブナ林、シオジ林など】 ツガ、モミ、ミズナラ、ブナ、イヌブナ、 ヒメシャラ、アセビ、チチブドウダン、 ヤマイワカガミ、ハクウンボク、サワシ バ、スズタケ、コカンスゲ、サワグルミ、 シオジ、カツラ、アカヤシオ、シロヤシ オ など	【シデ林、ミズナラ林など】 アカシデ、クマシデ、イヌシデ、ミズメ、 ウダイカンバ、ヤシャブシ、オノオレカ ンバ、アワブキ、ダンコウバイ、ウラジ ロノキ、ミヤマハハソ、ニシキウツギ、 ノリウツギ、ミズナラ、クリ、イヌザク ラ、ウワミズザクラ など
	低地帯	【モミ林、ケヤキ林など】 モミ、ツガ、カヤ、ウラジログシ、アカ ガシ、ツクバネガシ、サカキ、シキミ、 ミヤマシキミ、ヒイラギ、イロハモミジ、 ケヤキ、クジャクシダ、アラカシ、ヤブ ツバキ など	【コナラ林、ススキ草地など】 コナラ、クヌギ、ミズキ、ヤマザクラ、 ムラサキシキブ、コバノガマズミ、ヤマ ツツジ、ノガリヤス、タチツボスミレ、 ササユリ、ススキ、ワラビ、ノコンギク など
	植林	【スギ・ヒノキ林、カラマツ林など】 スギ、ヒノキ、サワラ、カラマツ、モウソウチク など	
段丘・ 低地	耕作地	【茶畑、水田など】 チャノキ、ナスナ、ツククサ、コハコベ、メヒシバ、スベリヒユ、コミカンソウ、イ ヌビエ、コナギ、オモダカ、ウリカワ、キカシグサ、タネツケバナ、セトガヤ など	
河川	河辺自然植 生	【ヤナギ高木林、ツルヨシ草地】 コゴメヤナギ、イヌコリヤナギ、ノイバラ、アケビ、イタドリ、アカネ、スイバ、ヤ ブジラミ、ツルヨシ、ミソソバ など	
	溪谷の岩壁	サツキ、イワシャジン、ダイヤモンドソウ、ウラハグサ、ムギラン など	

【資料：静岡県植物誌 など】



コケモモ（高山帯）



オオシラビソ（亜高山帯）



アセビ（山地帯）



クジャクシダ（低地帯）



ノコンギク（低地帯）



ツククサ（耕作地）

絶滅の可能性のある植物

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある植物
絶滅危惧ⅠA類(CR)	ジンリョウユリ、キソエビネ、アツモリソウ
絶滅危惧ⅠB類(EN)	ヤマソテツ、クラガリシダ、ミョウギシダ、デンジソウ、オオヤマレンゲ、シロモジ、ヒロハヘビノボラス、ヒツジグサ、 アゼオトギリ 、ミヤマスマシ、ヒメビシ、ヤマホオズキ、タカネタチイチゴツナギ、シコクヒロハテンナンショウ、タカネナルコ、ハコネラン、フジチドリ、セイタカスズムシソウ、トキソウ
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	スギラン、タキミシダ、ナカミシシラン、ツクシヤブソテツ、タニヘゴ、イナデンダ、テバコワラビ、イワウサギシダ、サンショウモ、ミヤマツチトリモチ、オオビランジ、セツブンソウ、タマカラマツ、 カギガタアオイ 、エゾハタザオ、クモナズナ、マツノハマンネングサ、 ヤシャビシヤク 、キンロバイ、エンシュウツリフネソウ、チョウセンナニワズ、サクラスミシ、ホソバハナウド、キョウマルシヤクナゲ、クモイコザクラ、コイワザクラ、シナノコザクラ、キセウタ、ヤマジノタツナミソウ、タヌキモ、ニッコウヒョウタンボク、アキノハハコグサ、ヤナギタンボボ、クモニガナ、ヤハストウヒレン、チャボホトトギス、カキツバタ、ヒトツバテンナンショウ、スルガスゲ、ナツエビネ、コアツモリソウ、クマガイソウ、イチヨウラン、スズムシソウ、ウチヨウラン、ニョホウチドリ、ツレサギソウ、ヤマトキシウ、マツラン、モミラン、ムカデラン
準絶滅危惧(NT)	ヤマシヤクヤク、コオトギリ、キバナハナネコノメ、ミズマツバ、 スズサイコ 、タチキランソウ、アオホオズキ、オオヒキヨモギ、イヌノフグリ、ワタムキアザミ、イズハハコ、カワラニガナ、タカネコウリンカ、ミクリ、マメツタラン、ムギラン、エビネ、セッコク、クロヤツシロラン
現状不明(N-I)	ヤツガタケシノブ、アオチャセンシダ、ヤマキケマン、キンチャクスゲ
分布上注目種(N-II)	フジノデ、ヒメカラマツ、ミカワチャルメルソウ、トウヤクリンドウ
部会注目種(N-III)	チチフホラゴケ、アオネカスラ、カラハナソウ、サクライラス、ツゲ、キヨスミウツボ、ナベナ、イワシャジン、サワギキョウ、シデシャジン、ヤマアゼスゲ、アケボノシュスラン、ホザキイチヨウラン、アリドオシラン、ヒトツボクロ
環境省レッドリストのみに掲載されている種	オクタマシダ(VU)、ミドリアカザ(CR)、ニッケイ(NT)*、コイヌガラシ(NT)、ハクチョウゲ(EN)*、タカネママコナ(VU)、カワヂシャ(NT)、オナモミ(VU)

注 1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4)絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注 2) 太字は種の解説あり。

注 3) *の2種は栽培・逸出したものであるため、絶滅の可能性のある種の種数から除外した。

●**アゼオトギリ** (絶滅危惧ⅠB類)

田の畦や湿地に生育する多年草で、茎は枝を分けて地を這い、立ち上がると草丈 10～40cm程度になります。7～8月頃に茎と枝の先に黄色い花を咲かせます。圃場整備や湿地の開発により減少しています。

●**カギガタアオイ** (絶滅危惧Ⅱ類)

山地のやや陰湿な林内に生える多年草で、静岡県中西部と山梨県南部に分布します。柱頭の先が鉤のように曲がっていることが名前の由来です。葉は形がアオイに似て冬でも青々としており、花は落ち葉に埋もれるように咲きます。

●**ヤシャビシヤク** (絶滅危惧Ⅱ類)

山地帯のブナ原生林に生育する落葉小低木で、大樹の樹幹や樹洞に着生します。和名は「夜叉柄杓」で、果実の形を夜叉(やしや)が持つ柄杓(ひしゃく)に見立ててつけられました。ブナ林の減少や栽培用の採取などにより少なくなっています。

●**スズサイコ** (準絶滅危惧)

日当たりの良いやや乾いた草地に生育し、草丈 40～100cm程度で星型をした黄褐色の花をつけます。花は夕方から開き、翌日の朝日が当たると閉じてしまいます。草地の開発や草地の管理がされなくなり、生育地は少なくなっています。

②巨樹・巨木林

巨樹・巨木林とは、長い年月生き続けてきた古い大きな木や、それらが集まってできた林のことです。この巨樹・巨木林は、わが国の樹木・森林の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、人々の心のよりどころとなるなど、保護すべき自然として重要です。このような巨樹・巨木林の現状を把握するための調査が全国で行われており、本町でも 39 本の巨樹が確認されています。

巨樹・巨木林

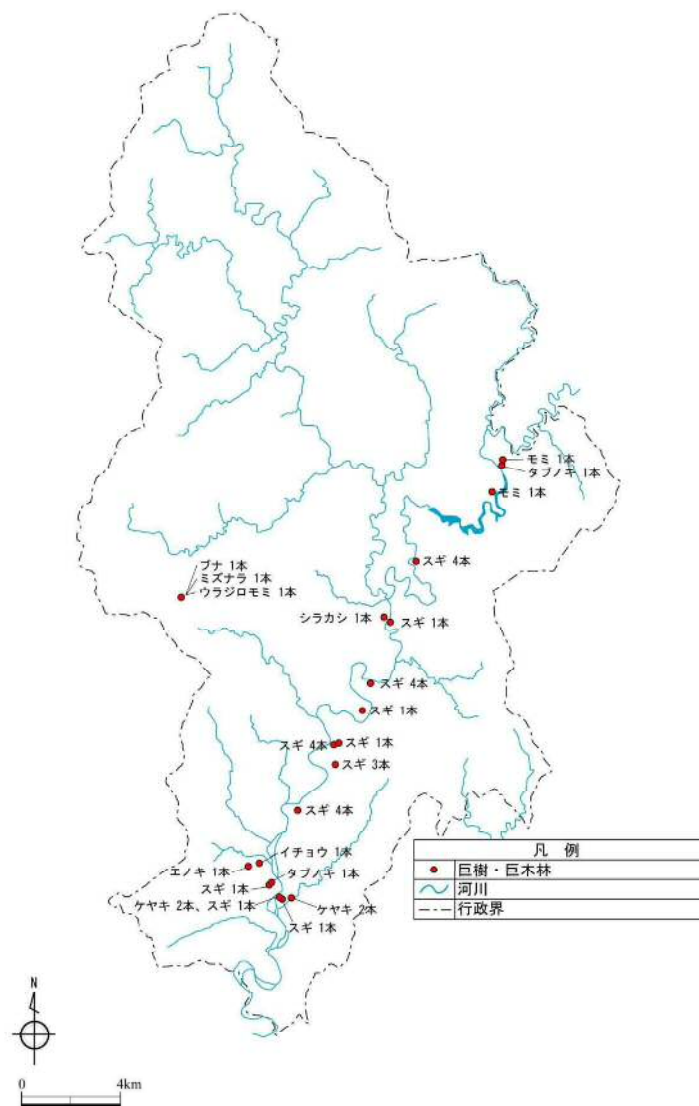
樹種	本数	樹種	本数	樹種	本数
イチヨウ	1	フナ	1	ケヤキ	4
モミ	2	ミズナラ	1	タブノキ	2
ウラジロモミ	1	シラカシ	1	合計	39
スギ ²⁾	25	エノキ	1		

注 1) 巨樹は幹周 300cm 以上。株立ちのものは主幹 200cm 以上、合計 300cm 以上のもの。

注 2) スギ 25 本のうち、3 本が県指定天然記念物。

注 3) 記録にあったアカマツ 1 本、カキノキ 1 本、スダジイ 1 本は現在では既にないため除外した。

【資料：第 4 回自然環境保全基礎調査、日本の巨樹・巨木林（平成 3 年）】



【資料：第 4 回自然環境保全基礎調査、日本の巨樹・巨木林（平成 3 年）など】

(3)町内に生息する動物

★ 2,260 種の動物が確認されています。

本町には原生自然環境保全地域や奥大井県立自然公園をはじめとする森林や、大井川の本支流などがあり、2,260 種の動物が確認されています。

山地の森林には、哺乳類、鳥類、両生類などの動物たちが数多く生息しています。光岳周辺などの高山帯では、オコジョ、ライチョウ、クモマベニヒカゲなど、標高の高い場所に特有の種が生息しています。河川には、ヤマトイワナやアカイシサンショウウオなど、県内の限られた場所で見られない動物が生息しています。

①哺乳類(40 種)

標高の高い場所のみに生息するアズミトガリネズミ、ヤチネズミ、オコジョ、山地帯から低地帯でも見られるノウサギ、タヌキ、イタチなどが生息しています。また、クロホオヒゲコウモリ、ヤマネなどの豊かな森林が広がる地域に見られる種や、静岡県内に分布する大型哺乳類の 5 種（ニホンザル、ツキノワグマ、イノシシ、ホンドリカ、カモシカ）すべてが生息するなど、多種多様な哺乳類が確認されています。



モモジロコウモリ
(絶滅危惧Ⅱ類)

なお、絶滅の可能性のある種として、モモジロコウモリやカワネズミなど 18 種が確認されています。

絶滅の可能性のある哺乳類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある哺乳類
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	モモジロコウモリ
準絶滅危惧(NT)	カワネズミ、コキクガシラコウモリ、キクガシラコウモリ、ムササビ、カヤネズミ
情報不足(DD)	フジホオヒゲコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、コテングコウモリ、テングコウモリ、モモンガ、ヤマネ、 オコジョ
分布上注目種等(N-Ⅱ)	ミズラモグラ
部会注目種(N-Ⅲ)	ウサギコウモリ、ニホンリス
環境省レッドリストのみに掲載されている種	アズミトガリネズミ(NT)、ノレンコウモリ(VU)

注 1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4)絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注 2) 太字は種の解説あり。

●モモジロコウモリ (絶滅危惧Ⅱ類)

頭胴長 44～63mm、体重 5.5～11g。体色は灰黒褐色で、下腹部から大腿部には本種の名前の由来となっている白い毛が生えています。廃坑やトンネル跡などで数頭～数百頭の集団で休眠します。ガヤカゲロウなどの飛翔昆虫を食べています。

●カワネズミ (準絶滅危惧)

頭胴長 94～144mm、体重 24～56g。周辺が森林で覆われた水の澄んだ山間の溪流に生息します。水中を泳ぎながら魚、水生昆虫、サワガニなどを食べています。

●オコジョ (情報不足)

頭胴長 182～198mm、体重 100g(雄)。亜高山帯から高山帯に分布します。肉食性でネズミ類、鳥類などを食べています。背面の体毛は、夏は濃い茶褐色、冬は白色になります。

②鳥類(118種)

南アルプス周辺の高山帯には特別天然記念物のライチョウや、ホシガラス、イワヒバリ、カヤクグリなど、亜高山帯にはエゾムシクイ、ルリビタキ、コマドリなど、山地帯から低地帯ではウグイス、ホオジロ、エナガ、シジュウカラなどが生息しています。

川原や溪流沿いでは、ヤマセミ、カワセミ、カワガラスが、ダム湖にはオシドリなどが見られます。

なお、絶滅の可能性のある種として、ライチョウやヤマセミなど29種が確認されています。



ヤマセミ（絶滅危惧Ⅱ類）

絶滅の可能性のある鳥類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある鳥類
絶滅危惧ⅠA類(CR)	イヌワシ、 ブッポウソウ 、チゴモズ
絶滅危惧ⅠB類(EN)	ミゾゴイ、 コノハズク 、 アカショウビン 、サンショウクイ
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	トモエガモ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ、クマタカ、ハヤブサ、 ライチョウ 、アオバズク、ヨタカ、 ヤマセミ 、コサメビタキ
準絶滅危惧(NT)	ヤマドリ、イカルチドリ、アリスイ、オオアカゲラ、 サンコウチョウ 、ミヤマホオジロ、フクロウ
分布上注目種等(N-II)	ノビタキ
環境省レッドリストのみに掲載されている種	オシドリ(DD)、オオコノハズク(DD)

注1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4)絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注2) 太字は種の解説あり。

●ブッポウソウ（絶滅危惧ⅠA類）

全長約 30cm。頭部は黒色で嘴は赤く、体は青緑色の美しい鳥です。社寺林や山地の林の樹洞、河川に架かる橋桁の隙間に営巣します。最近は樹洞のある大径木の減少、餌になる昆虫類の減少などから、個体数が減少しています。

●コノハズク（絶滅危惧ⅠB類）

全長約 20cm。日本のフクロウ類の中では最小の種です。落葉広葉樹林に生息し、樹洞に営巣します。鳴き声は「ブッポウソウ」と聞こえるため、声のブッポウソウと呼ばれます。ブナ林の伐採などで生息環境が減少しています。

●アカショウビン（絶滅危惧ⅠB類）

全長約 27cm。大きな赤いくちばしが特徴の夏鳥です。魚、昆虫などの小動物を食べています。姿を見ることは難しいですが、渓谷沿いで「キョロロロロロ」という鳴き声を聞くことができます。長島ダム周辺でも確認されています。

●ライチョウ（絶滅危惧ⅠB類）

全長約 36cm。2,500m以上の高山帯に生息する氷河期の遺存種で、光岳南部のハイマツ林などに生息しています。夏は褐色、冬は純白の羽毛に変化します。国の特別天然記念物となっています。

●ヤマセミ（絶滅危惧Ⅱ類）

全長約 28cm。白と黒の鹿子模様で嘴は長く、頭の羽は長く冠状になります。山地の溪流やダムに生息し、水中に飛び込んで魚を捕食します。川沿いの土手の崖に横穴を掘って営巣しますが、護岸工事などにより、営巣に適した崖が減少しています。川根本町の「町の鳥」にもなっています。

③爬虫類(9種)・両生類(14種)

爬虫類ではトカゲ、シマヘビ、アオダイショウなど、両生類ではトノサマガエル、モリアオガエル、カジカガエルなどが確認されています。サンショウウオ類では、県内に分布する3種（ハコネサンショウウオ、アカイシサンショウウオ、ヒダサンショウウオ）すべてが確認されています。

なお、絶滅の可能性のある種として、アカイシサンショウウオやカジカガエルなど11種が確認されています。



カジカガエル(準絶滅危惧)

絶滅の可能性のある爬虫類・両生類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある爬虫類・両生類
絶滅危惧ⅠB類(EN)	アカイシサンショウウオ
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ニホンアカガエル
準絶滅危惧(NT)	モリアオガエル、カジカガエル
情報不足(DD)	ナガレタゴガエル
分布上注目種等(N-Ⅱ)	トカゲ
部会注目種(N-Ⅲ)	アズマヒキガエル、トノサマガエル
環境省レッドリストのみに掲載されている種	イモリ(NT)

注1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4)絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注2) 太字は種の解説あり。

●アカイシサンショウウオ (絶滅危惧ⅠB類)

全長120～140mm。標高500～1,000m程度の森林に生息しています。生態については不明な点が多いですが、繁殖場所は溪流の源流部の地下の伏流水中と考えられています。幼体や成体は、溪流周辺の林床で生活します。

●ハコネサンショウウオ (絶滅危惧Ⅱ類)

全長132～190mm。県中部では標高1,000m前後の場所で主に確認記録があります。5～6月頃、水が湧き出る岩盤の隙間や地下の伏流水中に産卵します。変態後は山の斜面に分散し、湿った倒木や岩の下に隠れ、夜間や雨の日に活動します。

●モリアオガエル (準絶滅危惧)

体長42～82mm。主に山地の森林域に生息します。繁殖期には池、沼、水溜まりなどに集まり、止水上に張り出した枝などに白い泡状の卵塊をつくります。

●カジカガエル (準絶滅危惧)

体長33～80mm。河川の中流域で多く見られます。繁殖期には河川に集まり、それ以外の時期は森林の樹上で生活します。

●トカゲ (分布上注目種等)

全長180～240mm。海岸に近い低地から高地まで見られ、県内では富士川以西や富士山の東側の一部に分布します。ミミズ、クモ、コオロギなどを捕食します。

●アズマヒキガエル (部会注目種)

体長100～130mm。森林や耕作地などで見られます。繁殖期には、メスをめぐってオス同士が争う「ガマ合戦」が見られます。ミミズや昆虫類などを捕食します。

④魚類(12種)

魚類の多くはオイカワ、アマゴなど一生を淡水で過ごす純淡水魚で、海と往来する回遊魚はほとんど見られません。大井川本流にはウグイ、シマドジョウ、カワヨシノボリなどが生息し、寸又川の源流部は県内でも数少ないヤマトイワナの生息地となっています。

なお、絶滅の可能性のある種として、ヤマトイワナやアマゴなど4種が確認されています。



アマゴ（分布上注目種等）

絶滅の可能性のある魚類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある魚類
絶滅危惧ⅠB類(EN)	アカザ、ヤマトイワナ
分布上注目種等(N-II)	アマゴ、カワヨシノボリ

注 1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの中部地域の区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4)絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注 2) 太字は種の解説あり。

●アカザ（絶滅危惧ⅠB類）

全長 12cm。護岸整備がほとんど行われておらず、水質汚濁もほとんどない、自然が豊かな川の上流域下部から中流域上部にかけて生息します。昼間は巨石の隙間などに潜み、夜間活動します。水生昆虫などを食べています。

●ヤマトイワナ（絶滅危惧ⅠB類）

全長 25cm。大河川の源流域から上流域にかけて生息しています。盛夏の水温がおよそ 15℃未満の水域に分布し、主に淵を生息場所とします。生息環境の悪化やニッコウイワナの放流により、生息地、個体数が少なくなっています。落下昆虫や流下昆虫などを食べています。

●アマゴ（分布上注目種等）

全長 25cm。天然分布域は神奈川県酒匂川以西の本州太平洋・瀬戸内海岸、四国、九州瀬戸内海岸です。静岡県内では小河川を除きほぼ全域に天然分布していますが、各地で放流が行われています。年間を通じて水温が 20℃以下の渓流域に生息します。水生昆虫や落下昆虫などを食べています。

●カワヨシノボリ（分布上注目種等）

全長 6cm。太平洋側の分布東限は富士川となっています。川の上流域から中流域に分布します。淵から流れの緩やかな瀬にかけて生息し、水生昆虫や付着藻類を食べています。

⑤昆虫類(2,037種)

南アルプス周辺の森林限界から高山帯にかけてはベニヒカゲ、ミヤマシロチョウ、テカリダケフキバッタなど、亜高山帯ではキベリタテハ、ウラジャノメ、コエゾゼミなど、山地帯ではメスアカミドリシジミ、ヒメキマダラヒカゲ、アカアシクワガタ、ルリボシカミキリなど、低地帯ではウスバシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ヒメハルゼミ、ノコギリカミキリ、ミルンヤンマなどが生息しています。

なお、絶滅の可能性のある種として、クロシジミやテカリダケフキバッタなど22種が確認されています。



テカリダケフキバッタ
(情報不足)

絶滅の可能性のある昆虫類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある昆虫類
絶滅危惧ⅠB類(EN)	チャマダラセセリ
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	クロシジミ、オオチャバネセセリ
準絶滅危惧(NT)	コサナエ、ミヤマシジミ、オオミスジ、クロヒカゲモドキ
情報不足(DD)	テカリダケフキバッタ、オオチャイロハナムグリ、ヒゲコガネ
分布上注目種等(N-Ⅱ)	コキマダラセセリ、ウスイロオナガシジミ、オナガシジミ、コムラサキ、ミヤマシロチョウ、ベニヒカゲ、クモマベニヒカゲ、ウラジャノメ
部会注目種(N-Ⅲ)	フジミドリシジミ、オオムラサキ
環境省レッドリストのみに掲載されている種	オオナガレトビケラ(NT)、ツマグロキチョウ(VU)

注1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4) 絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注2) 太字は種の解説あり。

●チャマダラセセリ (絶滅危惧ⅠB類)

開張25mmの暗褐色に白斑をもつセセリチョウで、食草はミツバツチグリやキジムシロなどです。成虫は5月と7月末の年2回出現し、蛹で越冬します。食草の生育する草原で草刈りや放牧が行われなくなったため、遷移が進行してしまい、生息環境が減少しています。(30～40年前には町内にも生息していましたが、現在は未確認となっています。：以上聞取り)

●クロシジミ (絶滅危惧Ⅱ類)

開張32～40mm。地色は暗褐色で、雄は弱い紫色の輝きがあります。幼虫は1～2齢期にアブラムシ類などの分泌物を食べ、その後クロオオアリの巣の中で生活します。成虫は若い雑木林とその周辺の草原に生息します。雑木林及び草原の減少により、個体数が減っています。

●コサナエ (準絶滅危惧)

体長42～46mm、黒地に黄色い条斑がある小型のサナエトンボです。成虫は4～6月に出現し、抽水植物が繁茂する池沼などに生息します。

●テカリダケフキバッタ (情報不足)

体長約20～30mm。南アルプス光岳付近で確認されているだけの、極めて狭い範囲に分布する種です。成虫は8月下旬から10月に出現します。

⑥陸・淡水産貝類(30種)

陸上に生息するオクガタギセル、カサキビ、ミスジマイマイ、淡水に生息するカワニナ、サカマキガイなどが確認されています。亜高山帯の石灰岩地は、ナガナタネガイの県内唯一の確認場所となっています。

なお、絶滅の可能性のある種として、ナガナタネガイやカサネシタラガイなど15種が確認されています。



モノアラガイ(準絶滅危惧)

絶滅の可能性のある陸・淡水産貝類

カテゴリー区分	絶滅の可能性のある陸・淡水産貝類
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	ナガナタネガイ、オオトノサマガセル、ツバクロイワギセル、ミノブマイマイ、クロイワマイマイ
準絶滅危惧(NT)	モノアラガイ、ヒラマキミズマイマイ、オクガタギセル、カサネシタラガイ
環境省レッドリストのみに掲載されている種	ツメギセル、コケラマイマイ(以上NT)、オオウエギビ、カントウベッコウ、キヌツヤベッコウ、クリイロベッコウ(以上DD)

注1) カテゴリー区分は、静岡県版レッドデータブックの区分に従った。カテゴリーについての詳細は「(4) 絶滅の可能性のある動植物」を参照。

注2) 太字は種の解説あり。

●ナガナタネガイ （絶滅危惧Ⅱ類）

殻高 2.3mm、殻径 1.2mm の微小貝。山地帯に生息し、県内では川根本町内の亜高山帯の石灰岩地に生息が限られています。この生息地は原生自然環境保全地域内にありますが、人の立ち入りが目立ち、生息環境の悪化が懸念されています。

●モノアラガイ （準絶滅危惧）

殻高 10～20mm、殻径 8～15mm。比較的きれいな池沼や流れの緩い河川に生息します。

●カサネシタラガイ （準絶滅危惧）

殻高 1mm、殻径 1.7mm の微小貝。県内では中部と西部の山地に分布します。溪流近くの広葉樹林内で、林床の傾斜が急な礫地でよく見つかります。

(4) 絶滅の可能性のある動植物

★ 静岡県版レッドデータブック掲載種が 201 種、環境省版レッドリストのみの掲載種が 19 種、合計 220 種の絶滅の可能性のある動植物が確認されています。

本町では絶滅の可能性のある動植物として、静岡県版レッドデータブックに掲載されている 201 種、環境省版レッドリストのみに掲載されている 19 種の合計 220 種が確認されています。ただし、植物のニッケイとハクチョウグは環境省版レッドリストに掲載されていますが、栽培・逸出したものであるため種数から除外しました。

静岡県版レッドデータブックでは、絶滅の可能性を下表のようなカテゴリーで分類しています。

静岡県版レッドデータブックのカテゴリー区分と確認種数

カテゴリー区分	基本概念	本町での確認種数		
		植物	動物	合計
絶滅(EX)	本県で既に絶滅したと考えられる種	0	0	0
野生絶滅(EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種	0	0	0
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)	絶滅の危機に瀕している種	22	11	33
ⅠA 類(CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの	3	3	6
ⅠB 類(EN)	ⅠA 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの	19	8	27
絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅の危険が増大している種	51	23	74
準絶滅危惧(NT)	存続基盤が脆弱な種	19	22	41
情報不足(DD)	評価するだけの情報が不足している種	0	11	11
絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	地域的に孤立している地域個体群で、絶滅のおそれが高いもの	0	0	0
要注目種(N)	本県独自のカテゴリー	23	19	42
現状不明(N-Ⅰ)	現状が不明な種	4	0	4
分布上注目種等(N-Ⅱ)	絶滅の危険性は小さいが、分布上注目される種	4	13	17
部会注目種(N-Ⅲ)	その他各部会で注目すべきと判断した種	15	6	21
静岡県版レッドデータブック掲載種 合計		115	86	201
静岡県版レッドデータブックには掲載されていないが、環境省版のレッドリストに掲載されている動植物		6	13	19
合計		121	99	220

【資料：まもりたい静岡県の野生生物（県版レッドデータブック 2004） など】

(5)外来生物

★ **本町でも多くの外来生物が確認されており、そのうちの 3 種は特定外来生物に指定されています。**

ここでいう「外来生物」とは、人間の活動によって外国から入ってきた生物のことを指し、現在分かっているだけでも 2,000 種以上の外来生物が日本に生育・生息しています。

平成 17 年 6 月に施行された「外来生物法」では、生態系や人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものなどの中から「特定外来生物」を指定し、飼育、栽培、保管、運搬、輸入などが原則禁止されました。

本町では、植物のオオキンケイギク、オオハングウソウ、鳥類のソウシチョウの 3 種の特定外来生物が確認されています。

●オオキンケイギク（特定外来生物）

北アメリカ原産のキク科の多年草です。花が鮮やかな黄色で美しく、根がよく発達し荒地でも育つため、観賞や緑化によく利用されてきました。繁殖力が強く全国的に野生化し、路傍や河川敷にしばしば大群落をつくっています。そのため、在来生態系への影響が危惧されています。

●オオハングウソウ（特定外来生物）

北アメリカ原産のキク科の多年草です。明治中期に園芸植物として渡来し、緑化などに用いられてきました。全国的に野生化しており、路傍、荒地、湿原、河川敷などに生育します。肥沃な湿地に盛んに繁殖するため在来植生に影響がはじめており、国内各地で駆除作業が行われています。

●ソウシチョウ（特定外来生物）

全長 14cm。眉斑から頬は薄い黄色、胸部は濃いオレンジ色、翼に黄色と濃い赤の斑紋がある美しい鳥です。一般的にはササ類の繁茂する標高 1,000m 以下の常緑広葉樹林、落葉広葉樹林に生息します。江戸時代から飼育の記録があり、過去に飼育されていた個体が逃げたり、放鳥されたりした個体が分布を広げているようです。近年、本町では山犬段周辺（標高 1,600m）で多く見られるようになりました。

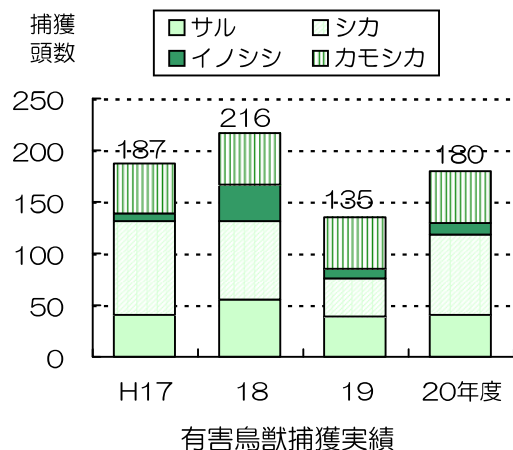
(6)有害鳥獣

★ **シカ、カモシカ、サル、イノシシなどによる農林業への被害が増加しています。**

シカ、カモシカ、サル、イノシシなどによる農作物や林産物などへの被害が増加しています。

平成 20 年度の有害鳥獣捕獲頭数は、シカが 77 頭、カモシカが 50 頭（個体数調整）、サルが 41 頭、イノシシが 12 頭の合計 180 頭でした。ここ 3 年間では、平成 18 年度に 216 頭を記録しています。個体が移動することもあり、年によって捕獲頭数は異なるものの、農林業への被害は増加しています。その原因のひとつとしては、高齢化などにより狩猟者数が減少していることがあげられます。

なお、「鳥獣による農林水産業等に係る被害の防止のための特別措置に関する法律」が平成 20 年 2 月に施行され、本町でも「被害防止計画」の策定を検討しています。



【資料：産業課】

第3節 快適環境

3-1 人と自然とのふれあい

★ 本町は大井川、キャンプ場や水とのふれあい、自然観察のできるハイキングコース、紅葉スポットなど、自然とふれあえる場所に恵まれています。

本町は大井川や周辺の山々など、豊かな自然に恵まれていることから、自然とのふれあいの場がたくさんあります。大井川の本支流には数多くのキャンプ場が整備されており、川ではカヌーや釣り、水遊びなどを楽しむことができます。平成15年の調査結果によると、大井川ダム管理所管内（長島ダム～塩郷堰堤）の年間河川入川者数は9,763人（キャンプ2,631人、水泳769人、魚釣り539人、その他5,824人）でした。また、塩郷堰堤、レインボーブリッジ、寸又峡・夢の吊橋は「静岡県のみずべ100選」に選ばれているほか、寸又峡温泉、接岨峡温泉、白沢温泉などの温泉にも恵まれています。

周辺の山岳を巡るハイキングコースなどでは、自然観察を楽しむことができ、「なかかわね三ツ星天文台」や「資料館やまびこ」など、ふれあい施設なども充実しています。さらに、「牧之原・川根路のお茶」が「かおり風景100選（環境省）」、「大井川鐵道のSL」が「残したい日本の音風景百選（環境省）」に選定されるなど、香りや音など五感で楽しめるような要素もあります。

また、紅葉やアカヤシオ、シロヤシオなどの植物を鑑賞するスポットも数多く、花の開花時や紅葉シーズンには、全国から多くの観光客が訪れます。

人と自然とのふれあいの活動の場

活動種	項目	地点名称
キャンプ	キャンプ場	くのわき親水公園キャンプ場、中川根自然キャンプ場、不動の滝自然広場オートキャンプ場、三ツ星オートキャンプ場、八木キャンプ場、池の谷ファミリーキャンプ場、アプトいちしろキャンプ場
ウォーター スポーツ	カヌー	接岨湖
	釣り	大井川本支流
水とのふ れあい	静岡県のみずべ100選	大井川・塩郷堰堤付近、大井川・レインボーブリッジ付近、寸又川・夢の吊り橋付近
	静岡県の湧き水100	小長井の湧水
	温泉保養地	接岨峡温泉、寸又峡温泉、千頭温泉、白沢温泉
自然観察	ハイキングコース 観察ルート	沢口山、寸又峡（グリーンシャワーロード）、智者山、天狗石山、三峰山、接岨峡、大札山、山犬段（ブナ林）、蕎麦粒山、高塚山、千石平、八丁段、板取山、天水、三ツ星山、無双連山、不動の滝ハイキングコース、鶴山の七曲りコース
	静岡の自然100選	山犬段（蕎麦粒山）、梅地アカマツ天然林、寸又峡、寸又川源流部の原生林
	河川・池沼	徳山ときどんの池、富沢蛸の里、神光寺沢、おろちの池
	ふれあい施設・広場	ウッドハウスおろくぼ・なかかわね三ツ星天文台、資料館やまびこ、長島ダムふれあい館・四季彩公園・大樽公園
香 り ・ 音 ・ 植物 の鑑賞	かおり風景100選	牧之原・川根路のお茶
	残したい日本の音風景 百選	大井川鐵道のSL
	花・紅葉の観賞	大札山（アカヤシオ、シロヤシオ）、徳山桃沢（シダレザクラ）、寸又峡（紅葉）、接岨峡（紅葉）、山犬段（紅葉、シロヤシオ）

【資料：かおり風景百選、静岡県花の名所180選、静岡県のみずべ100選、静岡県の湧き水100、自然観察コース100選ガイド、残したい日本の音風景百選、ふるさとの自然・中部編、川根本町癒しの里ハイキングガイド、静岡の自然100選、川根本町ホームページ】



人と自然とのふれあいの活動の場位置図
 【資料：川根本町癒しの里ハイキングガイド、川根本町ホームページ など】

3-2 公園

★ **長島ダム四季彩公園、智者の丘公園などの公園があります。**

町内の公園については、長島ダム四季彩公園、智者の丘公園のほか、児童遊園、幼稚園・保育園の遊具と広場の解放、河川敷の親水公園や広場、各地区の手づくり広場などがあり、多くの町民に利用され、親しまれています。

3-3 景観

★ **茶畑、鉄道、大井川・寸又川、背景としての山岳・森林などは本町を代表する景観要素です。**

★ **荒廃森林、放棄・遊休農地などが増え、また、老朽化して景観にそぐわない看板や建物も増加しています。**

本町は奥大井県立自然公園、本州唯一の原生自然環境保全地域を有し、雄大な溪谷や山岳によって創り出された美しい景観が特徴的です。

景観資源としては、数多くの河成段丘や接岨峡、寸又峡、大井川などの穿入蛇行河川、茶畑景観、SL やアプト式鉄道の景観などがあります。また、眺望点として蕎麦粒山、大札山、光岳、沢口山などの頂上をはじめ、智者の丘公園などの展望台があります。特に茶畑、鉄道、大井川・寸又川、背景としての山岳・森林などは本町を代表する景観要素です。また、平成 21 年 1 月には、大井川の河川景観、川根茶の香る茶畑、FSC 森林認証の取得などによる環境に配慮したまちづくりが評価されて、本町が「にほんの里 100 選」に選定されました。

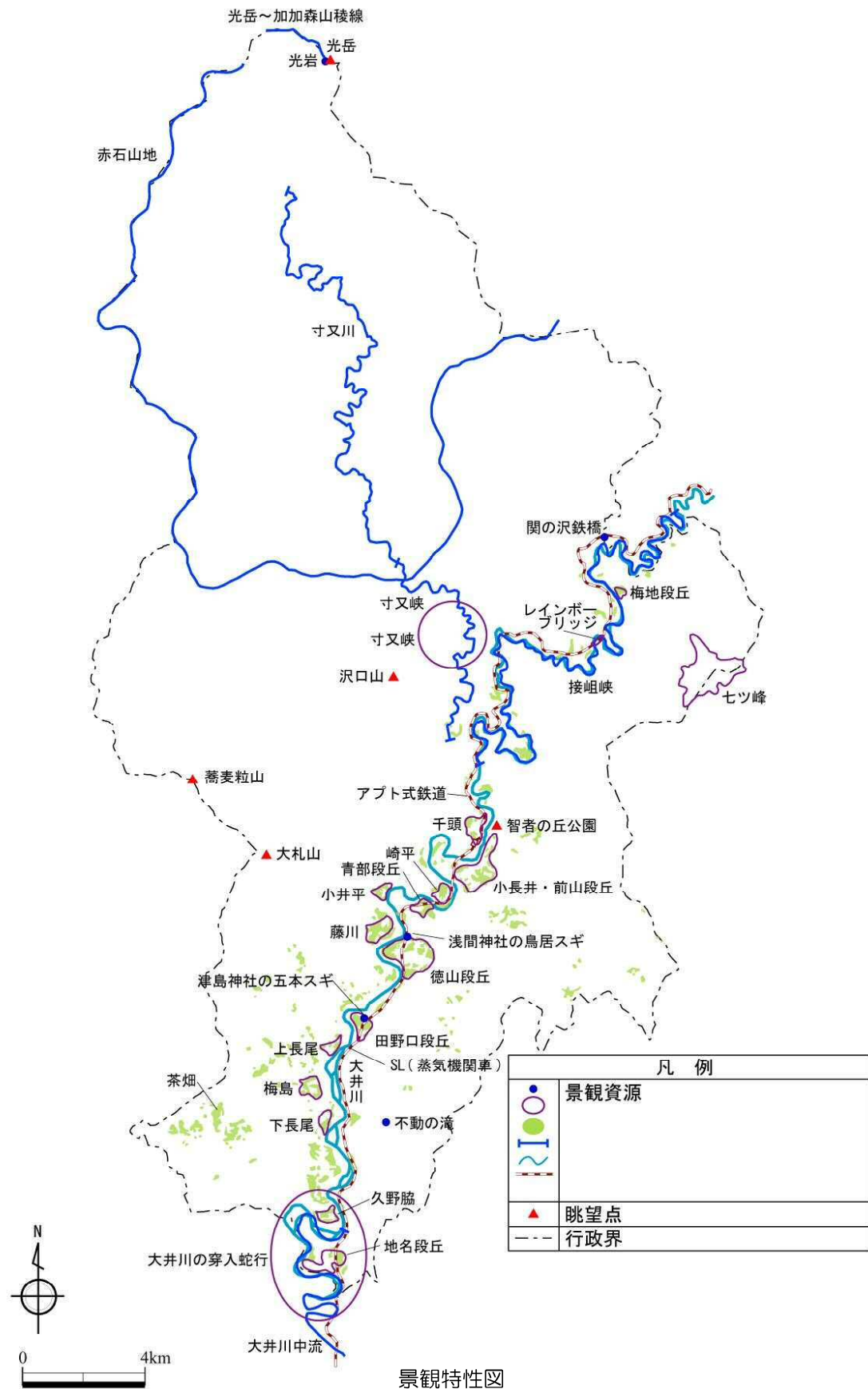
静岡県が平成 20 年 3 月にまとめた『静岡県戦略課題研究「大井川・伊豆」研究報告書』によると、本町の森林に囲まれた山間地集落は、海外来訪者にとっても有効な景観資源になりうるということが指摘されています。また、車窓景観における茶園の出現頻度は、県内の代表的な中山間茶産地である安倍川流域や天竜川流域などと比べて高く、茶園景観の評価としては、山間部の景観、丘陵から見下ろせる景観の評価が高くなりました。

しかし、少子高齢化や担い手不足などの影響により、荒廃森林、放棄・遊休農地などが増え、また、老朽化して景観にそぐわない看板や建物も増加しています。前述の報告書によれば、電線電柱、住宅建造物、ガードレール、鉄塔などが特に好ましくない景観構成要素としてあげられています。

優れた景観資源及び眺望点

項目		地点名称
景観資源	日本の自然景観・東海版	山脈・山地・高地
		赤石山地
		非火山性孤峰
		七ツ峰
		特徴的な稜線
		光岳～加加森山稜線
		岩峰・岩柱
		光岩（光岳）
	静岡県自然景観	峡谷・溪谷
		寸又川
	静岡県自然景観	河成段丘
		小長井・前山段丘、青部段丘、徳山段丘、田野口段丘、千頭、崎平、小井平、藤川、上長尾、梅島、下長尾、地名段丘、久野脇
	静岡県自然景観	穿入蛇行河川
		接岨峡、寸又峡
	静岡県自然景観	寸又峡、大井川の穿入蛇行
	天然記念物	津島神社の五本スギ、浅間神社の鳥居スギ
	その他	大井川、茶畑、SL、アプト式鉄道、レインボーブリッジ、関の沢鉄橋
眺望点	静岡県富士見二百景	蕎麦粒山、大札山、光岳
	展望地点	智者の丘公園、沢口山

【資料：日本の自然景観・東海版、静岡県の自然景観-その地形と地質、川根本町観光パンフレット、川根本町文化財一覧、静岡県の富士見二百景写真集、川根本町ホームページ】



【資料：日本の自然景観・東海版、川根本町観光パンフレット、川根本町ホームページ など】

3-4 歴史・文化

(1) 指定・登録文化財

★ 町内には 42 件の指定・登録文化財があります。

町内には、国指定重要無形民俗文化財の「徳山の盆踊」をはじめ、41 件の指定文化財があります。そのうち、天然記念物は「津島神社の五本スギ」「浅間神社の鳥居スギ」の2件、史跡は「小長谷城址」の1件、建造物は「秋葉常夜燈籠」など6件です。また、江戸時代から茶業の歴史を持っている本町では、お茶の「手揉製茶技術」が県の無形文化財として指定を受け、町内には数多くの伝統技術を受け継いだ名人・達人がおられます。

登録文化財としては、「大井川鐵道車両用転車台」が国指定登録有形文化財として登録されています。

指定文化財(1)

指定主体	No.	地区名	種類	名称	指定年月日
国	1	徳山	重要無形民俗文化財	徳山の盆踊	昭和62年12月28日
	2	寺馬	有形文化財（工芸）	わに口	昭和31年10月17日
	3	寺馬	有形文化財（工芸）	わに口	昭和31年10月17日
	4	田野口	天然記念物	津島神社の五本スギ	昭和46年8月3日
	5	徳山	天然記念物	浅間神社の鳥居スギ	昭和46年8月3日
	6	接岨	無形民俗文化財	梅津神楽	昭和47年3月24日
	7	青部	有形文化財（工芸）	わに口	昭和50年3月25日
	8	青部	有形文化財（工芸）	わに口	昭和50年3月25日
	9	田代	無形民俗文化財	田代神楽	昭和60年3月19日
	10	藤川	無形文化財（工芸技術）	手揉製茶技術（高田一夫）	平成02年10月26日
	11	徳山	無形民俗文化財	徳山神楽	平成08年3月12日
町	12	洗富小幡	有形文化財（工芸）	わに口	昭和45年11月2日
	13	洗富小幡	有形文化財（工芸）	太刀	昭和45年11月2日
	14	坂京	有形文化財（工芸）	双盤	昭和45年11月2日
	15	小長井	有形文化財（工芸）	和鐘	昭和45年11月2日
	16	田代	有形文化財（古文書）	武田家朱印状他1	昭和47年3月9日
	17	崎平	有形文化財（考古資料）	石剣	昭和47年3月9日
	18	千頭東	有形文化財（考古資料）	石剣	昭和47年3月9日
	19	沢間	有形文化財（工芸）	刀	昭和47年11月2日
	20	崎平	有形文化財（工芸）	十文字槍	昭和50年8月30日
	21	崎平	有形文化財（工芸）	脇指	昭和50年8月30日
	22	崎平	有形文化財（工芸）	脇指	昭和50年8月30日
	23	小長井	有形文化財（史跡）	小長谷城址	昭和50年8月30日
	24	水川	有形文化財（建造物）	水川阿弥陀堂	昭和54年3月5日
	25	上長尾	有形文化財（彫刻）	木造如来座像（智満寺）	昭和54年3月5日
	26	上長尾	有形文化財（彫刻）	千手観世音菩薩立像	昭和54年3月5日
	27	久保尾	有形文化財（工芸）	わに口	昭和54年3月5日
	28	桑野山	有形文化財（建造物）	東方薬師堂	昭和54年7月3日
	29	桑野山	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年1月24日
	30	大間	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月13日
	31	大間	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月13日
	32	桑野山	有形文化財（工芸）	わに口	昭和55年3月13日
	33	接岨	有形文化財（工芸）	わに口	昭和56年3月30日
	34	上長尾	有形文化財（建造物）	智満寺山門	昭和63年2月12日
	35	水川	有形文化財（絵画）	村松以弘作 天井絵	昭和63年2月12日

【資料：町の文化財、川根本町ホームページ】

指定文化財(2)

指定主体	No.	地区名	種類	名称	指定年月日
町	36	瀬平	無形民俗文化財	平谷の流したい	昭和 63 年 2 月 12 日
	37	青部	有形文化財（絵画・彫刻）	天井・欄間の絵画と彫刻	平成元年 11 月 3 日
	38	徳山	有形文化財（建造物）	愛宕地藏堂	平成 12 年 11 月 14 日
	39	徳山	有形文化財（建造物）	秋葉常夜燈籠	平成 12 年 11 月 14 日
	40	千頭西	有形文化財（建造物）	秋葉常夜灯	平成 17 年 3 月 23 日
	41	小長井	有形文化財（墓石群）	五輪さん	平成 17 年 3 月 23 日

【資料：町の文化財、川根本町ホームページ】

登録文化財

登録主体	No.	種類	名称	指定年月日
国	1	登録有形文化財（建造物）	大井川鐵道車両用転車台	平成 13 年 8 月 28 日

【資料：文化庁ホームページ・国指定文化財データベース】

(2)その他の歴史的・文化的遺産

- ★ 町内には寺社や鉄道関係施設、吊橋、祭りなど、歴史的・文化的遺産が数多く残っています。
- ★ 地域の歴史を物語る貴重な建物や生活用品、民話、昔話など、多くの地域文化の保存や発掘、伝承活動が行われています。

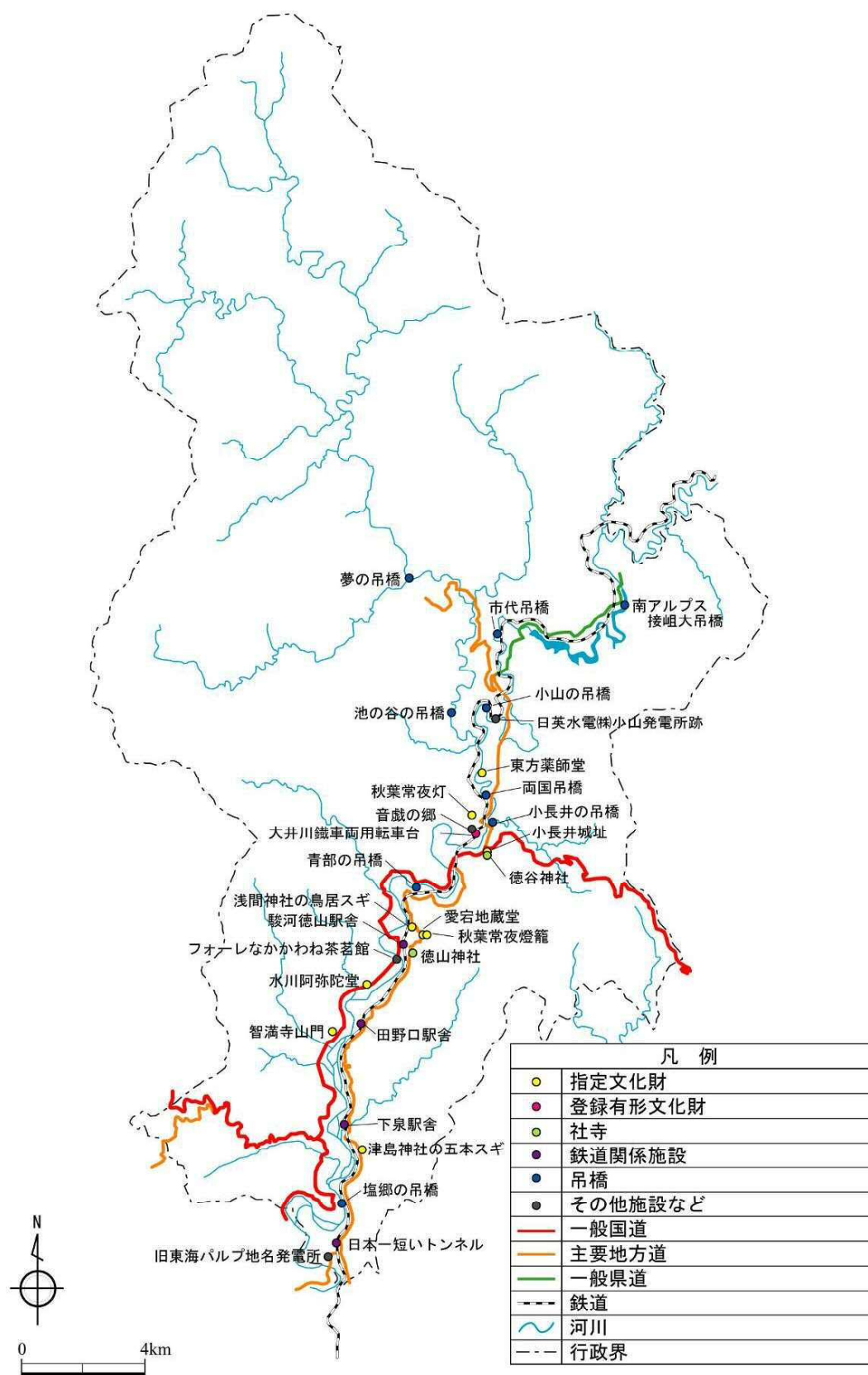
町内には寺社や鉄道関係施設、吊橋、祭りなど、歴史的・文化的遺産が数多く残っており、魅力ある伝統的な文化が数多く残る町として、全国各地に情報発信されています。特にノスタルジックな駅舎や吊橋は数多く残っており、ロケーション撮影などにも利用されています。

また、地域の歴史を物語る貴重な建物や生活用品、民話、昔話など、多くの地域文化の保存や発掘、伝承活動が行われています。なかでも民話・昔話などは語り部の皆さんによって語り継がれ、「資料館やまびこ」や小・中学校などでは、当時を忍ばせる生活用品などが展示されています。グループや個人などで音楽や書などの文化を楽しむ方々も多く、文化協会を中心にさまざまな活動が展開されています。

その他の歴史的・文化的遺産

種別	歴史的・文化的遺産
遺跡	遮光器土偶（昭和 27 年に上長尾遺跡より出土）
寺社	徳山神社、徳谷神社
鉄道関係施設	日本一短いトンネル、駿河徳山駅舎、田野口駅舎、下泉駅舎
吊橋	塩郷の吊橋、両国吊橋、青部の吊橋、小長井の吊橋、小山の吊橋、池の谷の吊橋、南アルプス接岨大吊橋、夢の吊橋、市代吊橋
施設など	旧東海パルプ地名発電所、日英水電（株）小山発電所跡、音戯の郷、フォーレなかかわね茶茗館
祭り	梅津神楽（1 月）、春を呼ぶ天狗まつり（春分の日）、徳山の盆踊り（8 月）、田代神楽（9 月）、徳山神楽（10 月）、寸又峡もみじまつり（10 月）、奥大井ふるさとまつり（11 月）、寸又峡温泉感謝祭（12 月）

【資料：川根本町観光パンフレット など】



歴史的・文化的遺産位置図

【資料：文化庁ホームページ・国指定文化財データベース 川根本町観光パンフレット など】

第4節 生活環境

4-1 公害全般

★ 本町では近年、公害苦情はありませんが、一部の施設における、周辺環境の悪化に対する苦情があり、県の指導を得ながら、現在もその状況の監視を継続中です。

本町では近年、工場等による公害の苦情はありませんが、一部の施設における周辺環境の悪化に対する苦情があり、県の指導を得ながら、現在もその状況の監視を継続中です。

公害防止については啓発活動を実施し、苦情に対する処理体制も整えています。また、公害を未然に防止するため、事業所などへのエコアクション21の取得を推進しています。

4-2 大気環境

(1)大気汚染

★ 本町では大気汚染物質の常時観測は行われていません。

大気汚染物質は、工場から排出される硫黄酸化物(SO_x)、自動車などから排出される窒素酸化物(NO_x)や浮遊粒子状物質(SPM)、二次的に生成される光化学オキシダント(O_3)などがあります。これらのうち二酸化硫黄(SO_2)、二酸化窒素(NO_2)、浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントには、人の健康を保護する上で維持することが望ましい基準として環境基準が定められています。

本町では大気汚染物質の常時観測は行われていませんが、平成21年度から光化学オキシダント区域に編入され、今後は光化学オキシダントに関する注意報や警報が発令されることとなります。なお、樹木には酸素供給や大気浄化などの機能があるため、本町にある広大な森林は、大気環境の保全にも大きな役割を果たしていると考えられます。

(2)悪臭

★ 悪臭防止法における特定悪臭物質濃度により規制され、E区域に区分されています。

悪臭は、人に不快感を与えるに及ぶ原因となる物質が大気中に放出されるために発生するものです。しかし、「におい」は個人差や慣れが大きく作用しており、騒音・振動と同様、「感覚公害」と呼ばれています。また、「におい」の原因物質を90%以上取り除いても、感覚的には半分しか減少していないように感じるという特徴があり、悪臭対策を困難なものにしています。

本町は、悪臭防止法における特定悪臭物質濃度により規制され、「E区域」に区分されています。特定悪臭物質とは、不快なにおいの原因となり、生活環境を損なう恐れのある物質であって政令で指定されているものです。現在22物質が指定されています。

特定悪臭濃度による規制

項目	内 容
規制地域	町の全域
規制基準	E区分(窒素化合物、低級脂肪酸に中庸で、他の物質にきびしい基準値を設定した区域)
特定悪臭物質	アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、硫化メチル、二硫化メチル、トリメチルアミン、アセトアルデヒド、プロピオンアルデヒド、ノルマルブチルアルデヒド、イソブチルアルデヒド、ノルマルバレールアルデヒド、イソバレールアルデヒド、イソブタノール、酢酸エチル、メチルイソブチルケトン、トルエン、スチレン、キシレン、プロピオン酸、ノルマル酪酸、ノルマル吉草酸、イソ吉草酸 (以上22物質)

【資料：静岡県生活環境室ホームページ】

(3)騒音・振動

★ 一般国道 362 号で騒音の面的評価が行われおり、全ての区間で環境基準を達成しています。

工場や建設作業、自動車の走行から発生する騒音や振動は睡眠や会話を妨げたり、快適な生活環境を損なうため、日常生活に影響を与えるものとして規制しています。

本町での騒音調査は、静岡県が自動車騒音の常時観測として一般国道 362 号で行っています。平成 20 年度の結果は、昼夜の達成率が 100%と全区間で達成していました。

一方、振動については調査を行っていません。

騒音の状況（面的評価）

県による調査結果								
年度	評価対象 道路	評価区間		達成状況（％）				環境基準
		延長 (km)	戸数	昼夜 達成	昼のみ 達成	夜のみ 達成	昼夜 超過	
平成 20 年	一般国道 362 号	13.1	544	100.0	0.0	0.0	0.0	昼間:70dB 以下 夜間:65dB 以下

注) 騒音測定は国が行っていますが、面的評価は静岡県が行っています（年 1 回）。

【資料：平成 20 年度 大気汚染及び水質汚濁等の状況】

(4)光害(ひかりがい)

★ 夜空が暗く、全国的にも星の観測に適した場所です。

「光害」とは、過剰または不要な照明などの光による害のことです。光害は、人間の諸活動や動植物の生息・生育に悪影響を及ぼすことがあるのと同時に、過度の屋外照明はエネルギーの浪費であり、地球温暖化の原因にもなります。

環境省で毎年夏期と冬期に実施している「全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）」の結果によると、本町は夜空が暗く、平成 18 年度夏期の観測では全国 2 位となっています。夜空が暗く、全国的にも星の観測に適していた場所であることが分かります。



星空と流星

環境省・全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）の結果

年度・時期	夜空の明るさ	順位	観測場所（参加団体）
平成 17 年度・冬期	21.8 等級	全国 4 位	川根本町高郷地内大井川隣接地 （スターウォッチング on 中川根）
平成 18 年度・夏期	23.6 等級	全国 2 位	
平成 19 年度・冬期	21.1 等級	全国 3 位	

注 1) 「夜空の明るさ」は、天頂付近の星空を撮影したカラーズライド写真から、星の明るさを表す「等級」を単位とする「夜空の明るさ：mag/□」（マグニチュードパー平方秒角）を算出したもの。値が大きいくほど夜空が暗く、星が見えやすいことを示す。

注 2) 備考の順位は、一般参加団体による写真撮影結果において夜空が暗かった場所としてあげられた順位であるが、自発的に参加した団体による、任意の地点の観察結果に基づいて評価したものであり、全国の星空を網羅的に調査したものではない。

注 3) 「夜空の明るさ」は、カラーズライド写真から求めた「夜空の明るさ(暗さ)」を基本に、肉眼や双眼鏡を使った観察結果や観察日時等も考慮して評価したものである。

【資料：環境省ホームページ・全国星空継続観察（スターウォッチング・ネットワーク）】

4-3 水環境

(1)河川の水質汚濁

★ **大井川・下泉橋調査点の水質は、BODの値が低くきれいな水ですが、SSの値が高い年があり、水の濁りが見られます。**

河川の水環境基準は、大井川の駿遠橋より上流がAA類型、下流がA類型に設定されていますが、その他の河川には環境基準は設定されていません。

大井川・下泉橋調査点では、静岡県が毎月水質調査を行っています。平成20年度の結果を見ると、BOD（生物化学的酸素要求量）の値が0.5mg/lととても低くきれいな水です。また、ここ10年間の経年変化をみると、BOD及びDOは環境基準を達成していますが、pHは非達成の年度があり、SSもやや高い数値の年があります。

また、町には簡易水道が19水系に設置され、水道法の項目（50項目）及び塩素酸について測定されています。

大井川・下泉橋における水質（生活環境項目）の経年変化

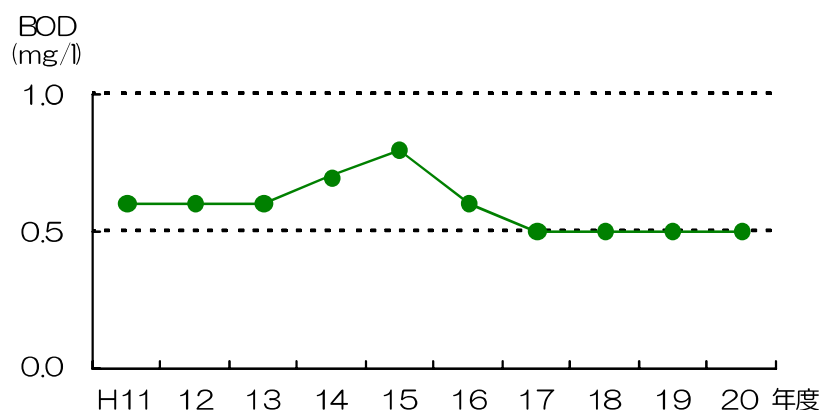
年度	大井川・下泉橋（AA類型）			
	pH	BOD(mg/l)	SS(mg/l)	DO(mg/l)
平成11年	7.5~8.1	0.6	2	9.7
平成12年	7.2~8.4	0.6	2	9.9
平成13年	6.8~8.4	0.6	2	9.8
平成14年	×7.2~8.9	0.7	7	9.8
平成15年	7.6~8.4	0.8	11	11.0
平成16年	7.2~7.9	0.6	13	9.3
平成17年	7.2~8.2	0.5	3	9.1
平成18年	7.0~8.0	0.5	8	9.2
平成19年	7.0~9.1	0.5	20	9.5
平成20年	7.5~8.2	0.5	9	9.5
環境基準	6.5以上8.5以下	1以下	25以下	7.5以上

注1) 測定は静岡県が毎月実施。各項目とも年度平均値。

注2) BODの環境基準は年度平均値ではなく、75%値での比較となるため注意が必要である。

注3) ×印は環境基準非達成。

【資料：静岡県環境白書、平成20年度 大気汚染及び水質汚濁等の状況】



大井川・下泉橋におけるBODの推移

注) 測定は静岡県が毎月実施。

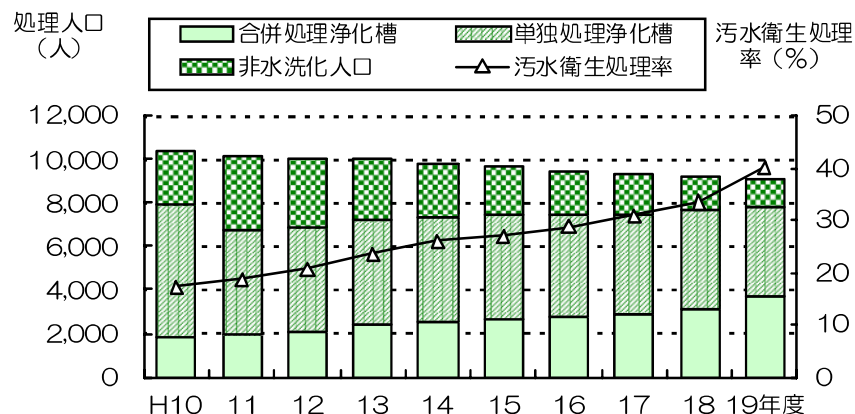
【資料：静岡県環境白書、平成20年度 大気汚染及び水質汚濁等の状況】

(2)生活排水対策

★ 汚水衛生処理率は40.2%であり、未だ生活排水の約6割が直接河川などに流れ込んでいます。

家庭や事業所から排出される汚水は、河川や海の水質汚濁の主な原因となっています。そのため、下水道や合併処理浄化槽、農業集落排水処理施設などの整備は、水質汚濁の防止のためにも重要です。

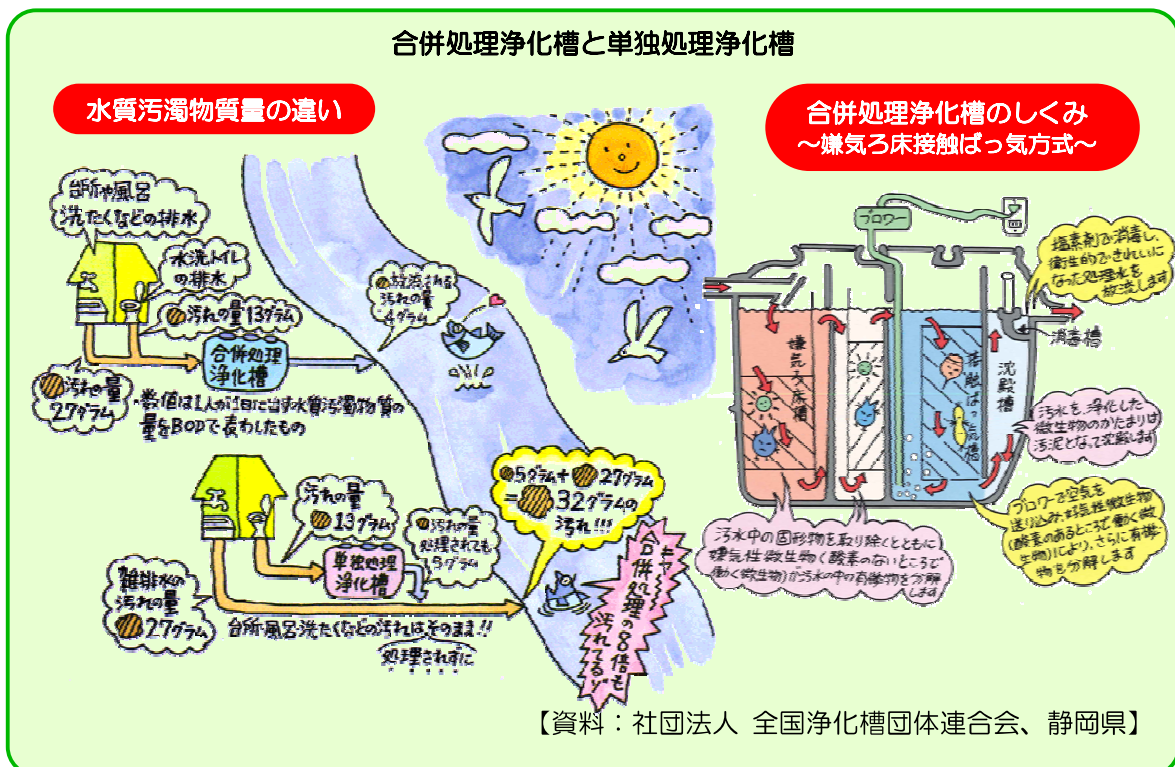
本町の生活排水処理の状況をみると、合併処理浄化槽の整備が年々進み、環境への負荷の大きい単独処理浄化槽は減少しています。汚水衛生処理率は年々増加しており、平成 19 年度には 40.2%となっています。しかし、未だ生活排水の約 6 割が直接河川などに流れ込んでおり、今後も合併処理浄化槽の整備が必要です。



生活排水処理の状況

注) 汚水衛生処理率 = (水洗化人口 - 単独処理浄化槽人口) ÷ 総人口 × 100 (%)

【資料:一般廃棄物処理事業のまとめ】



(3)地下水汚染

★ 地下水は、全ての項目で環境基準を超えている地点はありませんでした。

硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、肥料や家畜のふん尿、生活排水に含まれるアンモニウムが酸化したもので、作物に吸収されずに土壤に溶け出して富栄養化の原因となります。

静岡県が本町の徳山、田代、上長尾、下長尾、高郷において地下水の硝酸性窒素・亜硝酸性窒素濃度を測定した結果、環境基準（10mg/l）を超えた井戸はありませんでした。

地下水の硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素濃度の状況

年度	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素（mg/l）				
	徳山	田代	上長尾	下長尾	高郷
平成 14 年	1.4				
平成 15 年				4.9	
平成 16 年	0.2	2.8			
平成 19 年			0.4		
平成 20 年	0.3				0.5
環境基準	10mg/l 以下				

注）測定は静岡県が実施。

【資料：静岡県環境白書、平成 20 年度 大気汚染及び水質汚濁等の状況】

4-4 有害化学物質

★ 地下水、土壤中のダイオキシン類濃度は環境基準を達成しています。

ダイオキシン類に関しては、大気、水質、土壤、底質について環境基準が定められています。静岡県がダイオキシン類濃度の状況を定期的に調査・監視しており、町内では平成 14 年度、平成 16 年度、平成 19 年度に調査が行われています。

具体的には、地下水のダイオキシン類が徳山、田代の 2 地点で、土壤中のダイオキシン類が久野脇グラウンド、田代社会体育グラウンド、上長尾の 3 地点で調査が行われました。その結果、地下水、土壤とも全ての地点で低い数値を示し、環境基準を達成しています。

地下水中のダイオキシン類の状況（静岡県調査）

年度	地点名	測定値（pg-TEQ/l）
平成 14 年	徳山	0.020
平成 16 年	田代	0.038
環境基準		1.00

注）測定は静岡県が年 1 回実施。

【資料：静岡県環境白書】

土壤中のダイオキシン類の状況（静岡県調査）

年度	地点名	測定値（pg-TEQ/l）
平成 14 年	久野脇グラウンド	0.680
平成 14 年	田代社会体育グラウンド	0.640
平成 19 年	上長尾	0.090
環境基準		1,000

注）測定は静岡県が年 1 回実施。

【資料：静岡県環境白書、平成 19 年度大気汚染及び水質汚濁等の状況】

第5節 資源エネルギー

5-1 廃棄物

(1)一般廃棄物

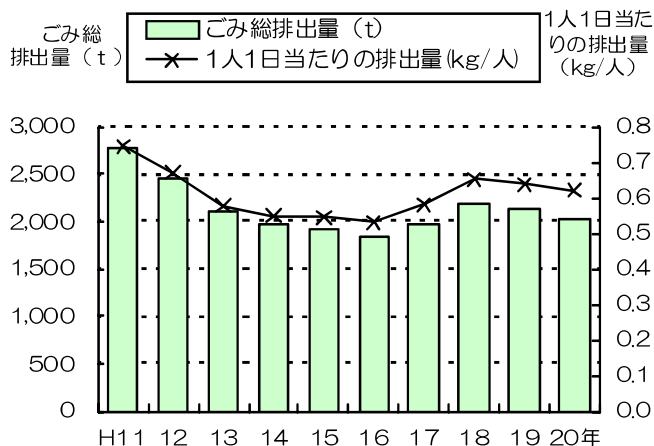
- ★ ごみ総排出量は、平成 19 年度以降減少し、平成 20 年度は 2,019t でした。
- ★ 町民 1 人当たりのごみ総排出量は県平均よりも少なくなっています。
- ★ ごみのリサイクル率は県平均を上回っています。

本町のごみ総排出量は、平成 19 年度以降減少し、平成 20 年度は 2,019t でした。また、平成 20 年度の 1 人 1 日当たりのごみ発生量は 0.622kg/人・日で、県平均（1.017kg/人・日、平成 19 年度）よりも少なくなっています。

また、資源ごみの回収を進めており、平成 20 年度のリサイクル率（集団回収を含む）は 31%となっています。これは県平均（21.6%、平成 19 年度）よりも高くなっています。

一般廃棄物の処理は、平成 18 年 4 月から稼動を始めた島田市北榛原地区衛生消防組合の「田代環境プラザ」で行っています。

田代環境プラザでのごみ処理方法は「シャフト式直接溶融方式」とよばれ、可燃ごみだけでなく、粗大ごみも一緒に溶融処理して、再資源化を図ることができます。また、剪定枝や食品残渣のリサイクル施設も併設しています。



ごみ総排出量と 1 人 1 日当たりごみ発生量の状況
【資料：一般廃棄物処理事業のまとめ、生活健康課】

(2)不法投棄・ごみのポイ捨て

- ★ 本町では不法投棄やごみのポイ捨てが増加する傾向にあります。

産業廃棄物などを法律が定める方法によって適切に処理せず、山林や原野などに投棄する「不法投棄」が問題となっています。

本町では、平成 20 年において 11 件の不法投棄が報告されており、その内容はテレビ、冷蔵庫、洗濯機、タイヤ、自転車などとなっています。また、観光シーズンには道路脇や河川などにおけるごみのポイ捨てが多く見受けられ、特にキャンプなどの利用によるごみの量は年々増加しています。このように不法投棄やごみのポイ捨ては増加する傾向にあり、未然防止策や連絡体制を整える必要があります。

5-2 資源エネルギー

(1)水力発電

★ **町内には 5 箇所の水力発電所があります。**

大井川上流域は年間降水量約3,000mmの多雨地域であり、また、急勾配の地形を利用して電源開発が進み、現在では大井川水系全体で15箇所の発電所が稼働しています。

本町の水力発電は、明治43年（1910年）に完成した地名発電所（株式会社東海紙料）から始まります。その後、地名発電所は昭和6年（1931年）に停止、昭和27年（1951年）に運用が再開されましたが、昭和36年（1961年）に廃止されました。

現在、稼働している5箇所の水力発電所は、いずれも昭和に入ってから運転が開始されたものです。これらのうち、最も認可出力が大きいのは「奥泉発電所」（87,000kW）です。

水力発電の概要

発電所名	ダム名	営業運転開始年月	認可出力	発電量(平成18年度)
湯山発電所	千頭ダム	昭和10年10月	22,200kW	98,079千kWh
大間発電所	大間ダム	昭和13年12月	16,500kW	68,806千kWh
奥泉発電所	奥泉ダム	昭和31年1月	87,000kW	387,969千kWh
大井川発電所	大井川ダム・寸又川ダム	昭和11年10月	68,200kW	357,790千kWh
久野脇発電所	境川ダム	昭和19年3月	32,000kW	160,877千kWh

注）事業者は中部電力株式会社。

【資料：図表で見るしずおかエネルギーデータ（平成20年10月）】

(2)新エネルギー

- ★ **本町に豊富にある森林資源を有効活用するため、木質バイオマス燃料を使用するストーブ・給湯ボイラー・風呂釜などに対する補助を行っています。**
- ★ **平成21年度からは太陽光発電や太陽熱温水器、高効率給湯器などの新エネルギー・省エネルギー機器に対する補助を行っています。**
- ★ **廃食用油(天ぷら油)の回収事業に取り組んでおり、その再生燃料化した一部を試行的にごみ収集車の燃料とする計画です。**

地球温暖化や原油価格の変動など、化石燃料の使用に伴うさまざまな問題が生じている中で、クリーンでかつ再生利用の可能な「新エネルギー」への期待が高まってきています。新エネルギーには、風力発電や太陽光発電、バイオマス利用などが含まれます。

本町では石油の代替エネルギーとして、私たちの町に豊富にある森林資源を有効活用するため、平成20年度に「森林(もり)のエネルギー導入促進事業費補助金」制度を導入しました。これは、薪などの木質バイオマス燃料を使用するストーブ・給湯ボイラー・風呂釜を設置すると、費用の5分の1以内（5万円限度）で補助金が交付される制度です。薪や石油を燃やすと二酸化炭素が発生しますが、薪は石油などの化石燃料とは異なり、樹木が吸収した大気中の二酸化炭素を排出するので、大気中の二酸化炭素は増加しないとされています。地域にある森林資源を薪エネルギーとして活用することは、大気中の二酸化炭素を増加させないことになるほか、森林の循環利用などの環境保全につながります。また、平成21年度からは太陽光発電や太陽熱温水器、高効率給湯器などの新エネルギー・省エネルギー機器についての補助や、廃食用油（天ぷら油）の回収事業に取り組み、その再生燃料化した一部を試行的にごみ収集車の燃料とする計画です。

5-3 地球温暖化

(1) 年平均気温の変化

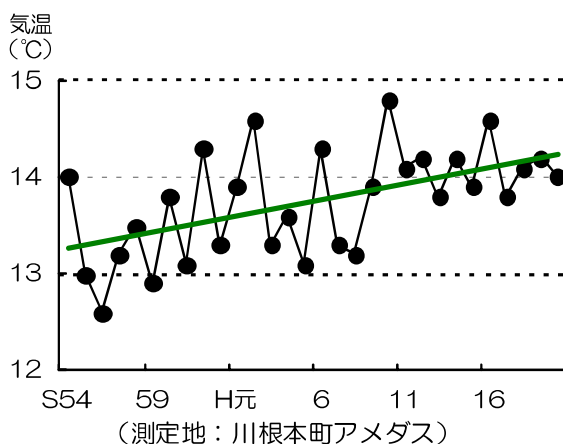
★ 年平均気温は年々上昇する傾向にあります。

地球は太陽光の熱エネルギーを受けて温められている一方で、温められた熱エネルギーを宇宙空間に放出し、また、二酸化炭素、メタンなどの温室効果によってバランスが保たれています。

ところが化石燃料の燃焼や森林の伐採などによって、二酸化炭素など温室効果ガスの濃度が増加し、これまで保たれていた地球の温度のバランスが崩れかけています。このような温室効果ガスの増加による地表面の温暖化とそれに伴うさまざまな影響を称して、「地球温暖化」と呼んでいます。

平成 19 年 2 月に「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」が発表した第 4 次評価報告書によると、21 世紀中に気温が 1.8℃～4.0℃（不確実さを考えると 1.1℃～6.4℃）上昇し、海面が 18cm～59cm 上昇すると予測されています。その結果、異常気象や海面上昇、農作物や生態系への影響などが懸念されています。

川根本町アメダスのデータによると、年平均気温は年々上昇傾向にあることがわかります。このような気温の上昇は、全国的・国際的な傾向となっています。



(測定地：川根本町アメダス)
川根本町アメダスの年平均気温の変化
【資料：気象庁ホームページ】

(2) 本町への影響

★ 地球温暖化は、本町の大切な自然資源である南アルプスや大井川、本町の基幹産業である川根茶の栽培などにも影響を及ぼす可能性があります。

① 高山植物への影響

本町には南アルプスがあり、光岳南東部は本州で唯一「原生自然環境保全地域」に指定される貴重な自然資源です。ここで見られるチョウノスケソウやタカネマンテマなどの高山植物は、高山帯の厳しい環境に適応して生きていますが、温暖化により気温が 2℃上昇すると、標高の低い場所に生えている植物が高山帯にまで分布を広げ、高山植物を追いやってしまう可能性があると考えられています。また、南アルプスはさまざまな高山植物の分布域の南限でもあります。最近では光岳のハイマツ分布の南限が北に移動してしまうのではないかと考えられています。

② 大井川の魚への影響

大井川はアユの漁場となっています。昔から暖冬時にはアユが少なくなるといわれており、実際に駿河湾や相模湾の海水温が高かった年には、アユがあまり採れませんでした。温暖化により、海や川の水温が上昇すると、アユの繁殖に影響を与える可能性があります。

また、大井川水系には冷水性のイワナとアマゴが共存している河川があります。イワナはより水の冷たい源流域に、アマゴはその下流側に棲み分けていますが、平均水温が上昇すると、イワナやアマゴは上流域へと追いやられ、一部の河川では絶滅してしまうかもしれません。

③お茶の栽培への影響

お茶は亜熱帯性の作物のため、気温が少し高くなる程度であれば影響は少ないと思われます。しかし、少雨・高温により水が不足すると、葉の生育が抑制されたり、冬が暖くなることで芽が不揃いになり、機械で摘みにくくなるなどの問題が生じると考えられています。

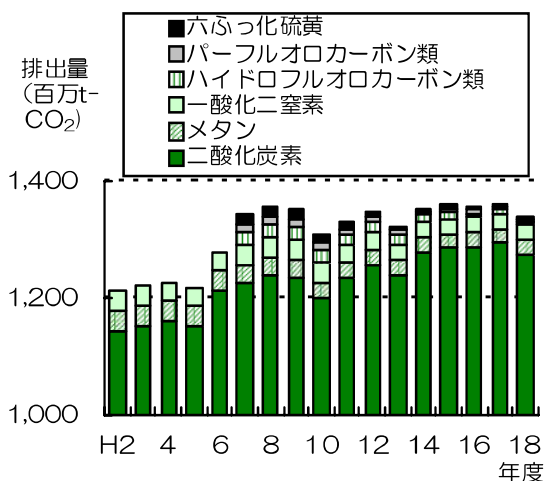
さらに、降水パターンが変わったり、水不足になったりすると、今まで以上に散水が必要になり、品質や栽培方法を変更する必要性も生じてくることが考えられます。

(3)温室効果ガスの排出・吸収

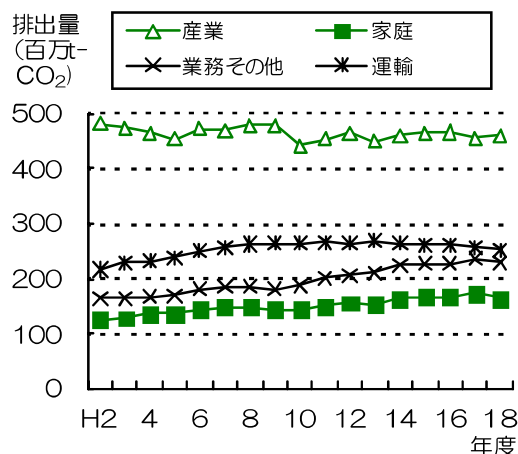
- ★ 日本の温室効果ガス排出量は、京都議定書の基準年(平成2年)と比較して増加しています。
- ★ 業務・家庭部門からの二酸化炭素の排出量が、特に大きく増加しています。
- ★ 平成18年度(基準年度)における、本町の事務・事業からの温室効果ガス排出量は1,897.912kg-CO₂です。
- ★ 本町の森林が1年間に吸収する二酸化炭素量は、約42,000世帯が1年間に排出する二酸化炭素量と同じくらいであると推計されます。

①日本の温室効果ガス排出量

地球温暖化を防止するための国際条約である「京都議定書」が平成9年12月に採択され、平成17年2月に発効しました。京都議定書では温室効果ガスの排出量について数値目標が設定されており、日本では平成2年(1990年)を基準年として、平成20年～平成24年(2008～2012年)までに6%の削減が義務付けられています。日本の温室効果ガス排出量は、平成2年度の基準年と平成18年度を比較すると6.2%も増加しています。温室効果ガスの内訳は、二酸化炭素が全体の約95%を占めています。部門別の排出量は産業部門及び運輸部門が多いものの、業務部門と家庭部門は近年大きく増加しています。



日本の温室効果ガス排出量の推移
【資料：環境統計集】



日本の部門別二酸化炭素排出量の推移
【資料：環境統計集】

②川根本町の町有施設からの温室効果ガス排出量

本町では平成 19 年度に「川根本町地球温暖化対策実行計画」を策定しました。この計画は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づいたもので、「水と森の番人が創る癒しの里」を理想像として、自然との共生・環境保護を促進するため、町の事務・事業から排出される温室効果ガスの歳出を削減し、環境に配慮した取り組みの推進を図ります。本計画によると、平成 18 年度（基準年度）における温室効果ガス排出量は 1,897,912kg-CO₂ です。また、平成 24 年度（目標年度）までに平成 18 年度と比べて「9%削減」を目標として設定し、本庁舎、総合支所、文化会館をはじめとして、すべての町の事務・事業において、温室効果ガス排出の削減に努めていきます。

③森林による二酸化炭素の吸収

森林を構成している樹木は、大気中の二酸化炭素を吸収して光合成を行い、炭素を有機物として幹や枝などに蓄え成長します。樹木が吸収し蓄積する二酸化炭素量は、例えば適切に手入れされている 80 年生のスギ人工林は 1ha で 1 年間あたり約 7.8t-CO₂/ha、同じく 80 年生のブナ主体の天然林は約 4.6t-CO₂/ha の二酸化炭素を蓄積すると推定されます（林野庁）。

本町では町面積の約 94%を森林が占めています。これらの森林が 1 年間に吸収する二酸化炭素量は、^注 約 42,000 世帯が 1 年間に排出する二酸化炭素量と同じくらいであると推計されます。

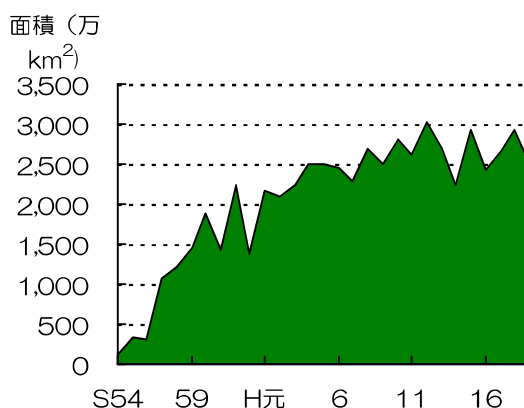
注）平成 12 年の世界農林業センサスデータ（人工林 21,432ha、天然林 22,987ha）及び林野庁ホームページの 1 世帯あたりの二酸化炭素排出量（年間 6,500kg-CO₂）を使用して計算。

5-4 オゾン層の破壊

★ 南極上空にオゾンホールが出現するなど、オゾン層の破壊が地球全体の問題となっています。

高度 10～16km から 50km までの上空（成層圏）には、大気中のオゾン層の 90%が集まっている「オゾン層」があります。大気汚染物質によって生成される対流圏のオゾンは、人間や動植物に悪影響を及ぼすおそれがありますが、成層圏にあるオゾン層は、地表に届いた場合に悪影響のある紫外線（UV-B）を吸収し、地上の生物を守っています。しかし、オゾン層は熱帯地域を除いてほぼ全地球的に減少し、南極上空ではオゾン層の薄い「オゾンホール」が確認されるなど、新たな地球環境問題としてオゾン層の破壊が取り上げられるようになりました。オゾンホールのは大きさは現在も拡大しており、平成 19 年は面積 2,490 万 km² で、南極大陸の大きさ（1,400 万 km²）を遥かに越えています。

オゾン層を破壊する原因となっているのは、冷蔵庫やエアコンなどの冷媒やスプレーの噴射剤などに広く利用されていたフロン類です。日本においても、昭和 63 年に「オゾン層保護法」を定めるとともに、国際的に協調してオゾン層の保護対策を推進するため、「オゾン層の保護のためのウィーン条約」及び「モントリオール議定書」に締結し、オゾン層破壊物質に関する規制を段階的に強化しています。



南極上空のオゾンホール面積の推移

【資料：気象庁ホームページ】

第6節 環境教育・環境保全活動

6-1 環境教育・環境学習・環境保全活動

★ 地球温暖化防止や森づくりをはじめ、環境教育・環境学習や環境保全活動が行われています。

学校では総合的な学習の時間のほか、学校給食残渣の堆肥化や「こどもエコクラブ」への登録・参加などにより、環境教育が行われています。また、地域ぐるみでの地球温暖化防止の活動、「F-net 大井川」によるFSC 森林認証の取得、「川根本町エコツーリズムネットワーク」によるエコツーリズムの推進をはじめ、環境保全活動を行う組織やボランティア団体などによる活動が行われています。

環境教育・環境学習・環境保全活動の事例

活動内容	具体的な内容
学校給食残渣の堆肥化	学校給食の残渣を乾燥し、粉末化したものを肥料として学校の花壇などで再利用している。生徒はこのような給食残渣のリサイクルを通じて、生ごみの減量化や資源の有効活用を学んでいる。
こどもエコクラブへの登録・環境活動	さゆり幼稚園土曜学校（35名）、南部小学校「緑の少年団」（90名）、中川根第一小学校（80名）、本川根小学校「エコキッズ」（114名）、川根高等学校（202名）、合計 521 名がこどもエコクラブに登録・参加している。なお、県内登録数は静岡市、浜松市、富士市に次ぐ。
ちゅうでんエコセッション 2008 への参加	平成 20 年 12 月 10 日に名古屋市で開催された「ちゅうでんエコセッション 2008」に静岡県代表として南部小学校が参加した。静岡・愛知・岐阜・三重・長野の各県から代表一校が環境学習への取り組みを実践発表するもので、南部小学校は、「お茶ガラで育てよう～緑のカーテンづくり～」 「町長を講師とした森林間伐学習」をはじめとしてさまざまな環境学習に積極的に取り組んでいる。
「F-net 大井川」による FSC 森林認証の取得	適正な森林管理を目指して、森林活動団体で組織する森林管理グループ「F-net 大井川」が平成 20 年 3 月に FSC 森林認証を取得した。全国で 24 番目、県内では初の取得である。
「川根本町エコツーリズムネットワーク」によるエコツーリズムの推進	「川根本町エコツーリズムネットワーク」は、平成 20 年 3 月に設立された組織で、今後、エコツーリズムのプログラム開発やエコツアーの企画などを行っていく予定となっている。
「大井川白羽山はばたきの森に集う会」による森づくり	ボランティアグループ「大井川白羽山はばたきの森に集う会」によって行われている、「百年先を見据えた森づくり」を目標とした活動。「ウッドハウスおろくぼ」に隣接する広さ約 1ha の土地を「白羽山はばたきの森」と名づけ、小中学生を含む町民を対象に植樹や森づくり体験などを行っている。
「ときどんの池ホタルを育てる会」による池の保全	ボランティアグループ「ときどんの池ホタルを育てる会」によって行われている、徳山の「ときどんの池」の保全・整備活動。水辺の整備やホタルの放流などを行っている。
「スターウォッチング on 中川根」による星空観察	ボランティアグループ「スターウォッチング on 中川根」によって行われている星空観察。環境省の全国星空継続観察にも参加している。
なかかわね三ツ星天文台での星空観察	「ウッドハウスおろくぼ」に隣接する「なかかわね三ツ星天文台」で星空の観察会を実施している。
「緑のカーテン」普及の取り組み	中部電力(株)から贈られたアサガオやニガウリの種を希望者へ配布し、「緑のカーテン」として窓の外で育て、直射日光を遮ることで省エネを図る取り組み。学校（南部小学校、中央小学校、本川根小学校、中川根中学校、川根高等学校）、自治会（徳山区、沢間区、千頭西区、吉町河内区、地名区、高郷区、小長井区、接岨区）、団体（川根本町商工会 千頭駅前グリーントンネル：奥大井の細道）公共施設（役場本庁舎、総合支所、文化会館）などのほか、各家庭でも取り組みを行っている。

【資料：企画課、川根本町ホームページほか】

6-2 環境情報

★ ホームページや広報紙などで本町の環境情報を提供しています。

本町のホームページや広報紙などでは、環境情報の提供や、環境問題についての啓発を行っています。